

意見交換会の結果と計画への反映等について（一覧表）

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
<b>【地域産業】</b>			
<b>1 ものづくり産業が時代の流れに対応し、活性化している</b>			
1	高岡市が管理する工業・産業団地は、8か所あり、最近分譲されたICパーク高岡（西部金屋産業団地）16ヘクタールのうち、企業進出が決まっていないのが約3ヘクタールの1区画となった。現状高岡市では、今後継続して企業誘致をする用地がないと聞いているが、今後の新たな造成計画は検討されているか。	市として産業団地を造成（拡張）し、企業誘致を行うことは、地域の雇用確保、定住人口（昼間人口）の増加、税収の確保にもつながりプラスの要因が多くみられる一方、多大なる財政負担を背負うことにもつながる。ICパーク高岡について分譲が完了したところだが、以前より、常に市としての産業団地造成の是非については、議論を重ねているところ。 総合的見地からの判断が必要となることから、議会をはじめ多くの方とその方向性については議論が必要と考えている。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開の＜企業誘致・立地の推進＞1点目に記載済。
2	工業系の団地開発には、基本的に線引き変更（市街化区域への編入）手続きが必要であると思われる。次回の線引き変更は、いつ頃になるのか。	市街化区域及び市街化調整区域との区分は、富山県が決定主体であり、線引き全体見直しの時期については未定と聞いている。 なお、商業系や工業系については、中心市街地活性化計画や産業ビジョンなどとの整合が図れ、必要と認められる具体的な計画がある場合は、決定権者である県等との協議を行ってまいりたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
3	少子化対策ということで小学校の統廃合が行われるが、子供たちが学校を卒業したあとに高岡市で就職してくれるかどうか。高岡市にとどまってもらうためには、魅力的な企業を増やすために企業の技術支援など、競争力のある企業になるように支援してもらいたい。	ハローワーク高岡、高岡商工会議所及び高岡市で構成する「たかおか企業人材確保推進協議会」では、首都圏等における移住・転職イベントへの参加、企業向けの人材確保セミナーの実施など、U I J ターン就職の推進に取り組んでいる。また、将来の市内企業への就職促進を図るため、市内高校生に働くということを感じてもらうとともに、地元の企業を知ってもらったり、郷土愛を育んでももらうため、キャリアサポートセミナーを実施しているほか、3月には、市内外の学生を対象にした企業見学バスツアーを実施している。 このほか、呉西圏域連携事業として、企業の魅力を高めるためのセミナーの開催やWEB合同企業説明会を企画し、学生から転職希望者まで幅広くマッチングの機会を提供するなど、中小企業の人材確保の促進に取り組んでいる。 新型コロナウイルス感染症の影響により、今後の企業の採用動向は不透明な状況であるが、引き続き、企業と求職者のマッチングを推進し、求職者の雇用確保・安定とともに企業の人材確保を図るため、各種セミナーや合同就職面接会等の事業内容の充実にも努め、雇用機会を創出してまいりたい。 また、今ある企業の技術支援については、新産業創造プラットフォーム業務を通じて、産学官の各機関と連携し、事業者のニーズや技術のシーズの把握に努め、意欲ある企業の技術開発や販路開拓等、競争力強化につながる支援を行ってきており、引き続き、積極的な支援に努めてまいりたい。	既に計画に掲載している。 ⇒施策の展開の＜新事業展開の促進＞8点目に記載済。
4	人口減少により、今の豊かな生活を維持することが出来ないのではないかと危惧しており、人口対策として、地域産業を育成・拡大することにより、定住人口を増やすことが重要ではないかと思われる。高岡市として、企業誘致にはどのような方法が必要と考えているのか教えてほしい。企業誘致のために必要なものは、立地・人材・文化と考えている。	本市においては、新規企業の誘致や既存企業の拡張ニーズのため、ICパーク高岡等をはじめとした産業団地を整備してきた。今後も東京、大阪、名古屋等の三大都市圏に近いという立地の優位性や立地に係る支援制度などをPRし、企業立地の促進に努めてまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開の＜企業誘致・立地の推進＞3点目に記載済。
5	岩坪団地の拡張を検討してほしい。地区において、農地の再整備を要望している中で、整備されると工業団地造成の足かせになるので、市の土地利用計画を早急に立てていただきたい。ICパークはどちらかというところではないか。高岡では能越自動車道を活用すべきであり、であれば国吉地区をぜひ活用してほしい。	市として産業団地を造成（拡張）し、企業誘致を行うことは、地域の雇用確保、定住人口（昼間人口）の増加、税収の確保にもつながりプラスの要因が多くみられる一方、多大なる財政負担を背負うことにもつながる。ICパーク高岡について分譲が完了したところだが、以前より、常に市としての産業団地造成の是非については、議論を重ねているところ。 総合的見地からの判断が必要となることから、議会をはじめ多くの方とその方向性については議論が必要と考えている。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開の＜企業誘致・立地の推進＞1点目に記載済。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
6	地域における福祉等のコストがますます増加する一方で、税収は増えていないのが現状である。首都圏から企業を誘致し、税収確保に努める必要があるのではないかとと思われる。	本市においては、雇用機会の創出や税収の涵養のため、企業誘致活動を行ってきた。今後も、新規企業の誘致や首都圏で開催する企業立地セミナーや企業訪問を行い、立地環境の優位性や立地に係る支援制度などを積極的にPRし、企業立地の促進に努めてまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒現況と課題2点目及び施策の展開の＜企業誘致・立地の推進＞3点目に記載済。
7	伏木港に大型豪華客船が入港して20年以上経過した中、伏木外港緑地帯の完成も近いと聞く。伏木地区に都会からの新企業（海外に交流する企業）の誘致に伴う、新しい夫婦の増加をぜひ県と連携して、新伏木づくりを推進していただきたい。	伏木港に関して、大型外港クルーズ船の入港は、地域への経済波及効果も高く、地域振興に大きな期待が寄せられている。市としては、クルーズ客船の寄港数を増やすため、緑地など受入環境の整備促進についての要望活動や関係機関と連携したクルーズ船の誘致活動に取り組んでまいりたい。また、万葉埠頭に進出された現在建設中のバイオマス発電所の運転が今年秋予定されており、市として税収面や雇用面で大きな期待を寄せているところである。引き続き、新たな雇用創出に寄与する企業誘致が図られるよう、更なる港湾整備等について港湾管理者である県や国に働きかけてまいりたい。	既に計画に記載している ⇒施策の展開の＜企業誘致・立地の推進＞3点目に記載済。
<b>2 水・緑・食が豊かで暮らしにうるおいがある</b>			
8	庄川左岸地域は、国営総合農地防災事業は終了している。庄川右岸地域にある中田地区においては、庄川右岸の用排水路は60年以上が経過しており老朽化が激しく、浸水被害では、特に平成26年7月のゲリラ豪雨時に、砺波市東保から中田地区を含め射水市串田地区に及ぶ広範囲にわたる農地や宅地等への浸水被害が発生した。その不安解消及び防災減災のため、庄川右岸における広域的な幹線排水路整備を推進してもらいたい。	庄川右岸地域の農地防災事業として、令和2年2月より県、本市も含めた関連市及び関連土地改良区による「庄川右岸地区の用排水対策に関する検討会」において、基幹的用水排水路の老朽化対策、並びに自然的・社会的変化等による水路の溢水被害防止対策を総合的に検討し、早期事業化に向け、取り組んでいるところである。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考にしたい。
9	今の水災害は局地的に大きな被害が発生するものであるため、突然の災害による被害が心配である。そのため、砂防ダム対策やため池の整備に力を入れてほしいと思っている。	現在、高岡市においては、防災重点ため池について、調査結果に基づき整備をおこなっているところである。今後も、ため池管理者と協議をおこない、対応してまいりたい。また、志貴野校区の砂防ダムの整備は、県により二上地区と五十里道重地区で実施されているところであり、早期完成に向け引き続き県に要望していきたい。国道160号の雨水排水については、国において地区の排水路への影響を考慮し整備されていると考えているが、近年、雨の降り方が強くなっていることもあり、国へは地元からの意見としてお伝えしたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜農地防災の推進＞に記載済。
10	イノシシの処理について、エコクリーンセンターに搬入する際には、80cmに切って搬入してほしいと言われる。人的コストがかかるため、大きな焼却炉を作してほしい。	守山地区では、イノシシの目撃情報が多数寄せられており、山を抱えている地域では、大変ご苦労をおかけしている。80cmを超えるイノシシの焼却処分については、高岡広域エコ・クリーンセンターの焼却炉投入口の制約から、80cm以下に切断し、搬入をお願いしている。現在、捕獲後の処分について、どのような方法が可能か検討しているところであり、地元の負担を減らすよう努めてまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜鳥獣被害防止対策の推進＞に記載済。
11	農地の存在は地域に様々なメリットがある。農地を守っている農家に、直接手厚い補助をお願いしたい。	現在、多面的機能支払交付金において、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、活動いただいており、今後も支援してまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜農村環境の保全＞に記載済。
12	農地を守ることは水害対策にもなる。災害に強い地域づくりに力を注いでほしい。	地を守ることは水害対策につながると考えており、庄川左岸地区の農地防災事業として、平成31年3月に国営事業が完了し、現在は、県営事業が実施されているところである。また、国土の保全等の農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮を図るため、引き続き、多面的機能支払交付金の推進をしてまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜農地防災の推進＞及び＜農村環境の保全＞に記載済。
13	自治会のなり手不足解消にもつながることから、次世代を担う若き農業者の育成に努めてほしい。	本市では、農業・農村を将来にわたって持続可能なものとするため、次世代を担う農業者の確保・育成に努めていくことは積極的に取り組むべき課題であると認識し、本総合計画にもその考え方を盛り込んでいる。本計画の下、農業が若手にとって魅力ある産業となるよう取り組みを進めるとともに、就農しやすい環境づくりに取り組んでまいりたい。	既に計画に記載されている。 ⇒施策の展開＜多様な担い手の確保と経営強化＞の1点目に記載済。
14	戸出地区では、児童と高齢者の安心安全を最優先としている。登校時の児童の見守りや、冬季には地域で除雪などに取り組んでいる。地域の特性上、用水が網の目のように張り巡らされているため、高齢者の用水転落事故が多発している。また、子供たちが用水周辺で遊んでいるなど、大変危険な状況であると思っている。防護柵の整備は進めてもらっているが、今後も、転落の恐れのある用水の洗い出しを進めていただきたい。	農業用水路等への転落事故防止を未然に防止するため、富山県農業用水路安全対策ガイドラインに基づき、県、土地改良区、用水管理者及び地域住民と連携し、ワークショップを通じた安全点検や危険箇所マップの作成をおこない、地域の実情に応じた効果的な対策強化を図ってまいりたい。また、防護柵の設置については、現地の状況を確認し、緊急度、優先度を判断し、検討してまいりたい。	計画に反映する。 ⇒施策の展開＜農村環境の保全＞1点目に記載。
15	西山丘陵はイノシシ被害に大変悩まされている。自分たちで何とか対応しているが、担い手がどんどん減っているなか、イノシシは増え続けている。	二上地区では、イノシシの目撃情報が多数寄せられており、地域の皆様には大変ご苦労をおかけしている。現在、捕獲後の処分について、どのような方法が可能か検討しているところであり、地元の負担を減らすよう努めてまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜鳥獣被害防止対策の推進＞に記載済。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
16	イノシシと熊の問題について、科学的説明も合わせ、対峙する住民が理解できることが重要であり、大所高所からの方針を総合計画にしっかり示してもらいたい。（共存するのか、駆除するのか、また、市民生活や農地は守れるのか。）	市民生活や農地を守るため、(1)未収穫作物や放任果樹の除去、藪の刈り払いにより、鳥獣との棲み分けを図る生息環境管理、(2)電気柵等の侵入防止柵整備による被害防除、(3)積極的な捕獲による個体数管理について、地域住民や関係団体と一体となり、取り組んでまいりたい。また、住民の安全を守るため、イノシシや熊が出没した際は、パトロールを行うとともに、防災メール、市のホームページや班回覧で情報発信を行い、注意喚起に努めてまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<鳥獣被害防止対策の推進>に記載済。
17	高岡市の中山間地に住んでいる住民のあるべき姿を指導願いたい。	五位山地域においては、五位山地域活性化協議会が主体となり、地域資源である「ゆず」を活かした商品開発や都市部との体験交流イベントである「竹の子まつり」や「秋の収穫祭」などを開催するなど、地域資源（農林産物、観光資源、自然）を活かした活動に取り組んでいる。 平成31年3月には「富山県中山間地域における持続可能な地域社会の形成に関する条例」が施行された。条例には、地域での話し合い活動への支援などが盛り込まれており、市としても県や関係団体と連携し、中山間地域における活動を支援してまいりたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
<b>【歴史・文化】</b>			
<b>3 世代を超えて受け継がれてきた歴史資産が大切に継承され、輝いている</b>			
18	勝興寺の国宝化を目指してほしい。そして、瑞龍寺や勝興寺のような歴史資産を活かした取り組みを進め、真の歴史都市高岡を目指してほしい。2つの国宝のお寺があるとなればより観光的な魅力も増すはずである。	重要文化財 勝興寺は、20年余りに渡る「平成の大修理」を経て、江戸後期の壮麗な大伽藍が甦っており、その文化財的価値や真宗王国越中の代表的寺院としての魅力を地域住民の皆様はじめ、多くの方々に発信していくことが重要であると考えている。 本市では、国宝瑞龍寺や重要文化財勝興寺等の歴史資産、伝統文化、工芸技術などの高岡の強みや特徴を活かし、発信することを通じて、本市の認知度向上及び観光誘客に取り組んでいるところ。 国宝瑞龍寺では、ライトアップ事業において、高岡御車山祭との回遊性を持たせるためシャトルバスを運行している。今後とも、本市の歴史・文化資産を活かした取り組みを進めていく。	既に計画に掲載している。 ⇒施策5-①観光資源の発掘と保存・活用の施策の展開<歴史・文化資産の保存と活用>に記載済。
19	勝興寺の国宝化について市の後押しをお願いしたい。	重要文化財 勝興寺は、20年余りに渡る「平成の大修理」を経て、江戸後期の壮麗な大伽藍が甦っており、その文化財的価値や真宗王国越中の代表的寺院としての魅力を地域住民の皆様はじめ、多くの方々に発信していくことが重要であると考えている。	ご意見は参考としたい。
20	重要文化財として勝興寺、氣多神社、武田家があり、そのほかに重要な建物として太田地区には国泰寺、氣多神社の中にある大伴神社、令和の時代で脚光を浴びている市の万葉歴史館が点在し、国分寺もある。歴史文化1400年前からの歴史をたどれる町である。伏木地区の歴史・文化分野の建物を上手に結びつけ回遊性を持たせて一大観光拠点として開発できたら良い。	伏木地区、太田地区には、勝興寺をはじめ、港町伏木が受け継いできた歴史・文化資産、海越しに立山連峰を望む雄大な眺望など、ほかの地域にはない特色を有した観光資源が存在している。 これら伏木ならではのすばらしい地域資源を生かし、ストーリー性を加えて個々の資源を結びつけ、観光資源としての価値を高めていく。国内外に向けて発信し、さらなる観光振興と地域の活性化に向けて取り組む。 伏木には伏木地区ストリート構想があり、歴史的資産を結びつけたルートとなっている。このことから、現在、ARなどのデジタル技術を活用することにより、新たな体験や、発見ができるよう、楽しい歩行空間の創出について検討を進めているところ。	既に計画に掲載している。 ⇒施策姿5-①観光資源の発掘と保存・活用の施策の展開<文化資産等を活かした観光振興>5点目に記載済。
21	長野の善光寺の門前町みたいに人が訪ねてきて食事・遊びができて何日も滞在するように、例に挙げた建物を有機的につないでいい街にしたいと考えている。	本市では、高岡の個性を磨き、魅力を高め、広く市民が高岡の歴史と伝統を再確認し、誇りと愛着を持てるような『歴史都市』を実現するため、平成23年度に歴史まちづくり計画を策定している。今年度は計画策定から10年を迎え、計画期間が終了することから、第2期計画の策定を進めている。 第2期計画においては、越中国府関連遺跡と氣多神社に見る歴史的風致を新たに追加するなど、北部地域を強化することとしており、歴史的建造物等の積極的な保存・活用、歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和など、高岡の歴史的風致の維持及び向上を図るための施策に取り組むこととしている。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
<b>4 暮らしの中に万葉と前田家ゆかりの文化が息づいている</b>			
22	昔は、高岡市民会館で演奏会や催し物があると、御旅屋通りや末広通りを歩いて市民会館まで行っていたため、通りが賑わっていた。今は、車社会になり、徒歩ではなく車で来場するため、今の市民会館の跡地だと駐車場が苦しいのではないかなと思う。 ただ、市民会館があることによって人が集まっていたと思うので、市民会館の改修がどうなるのか、また考えていただきたい。	現在休館中である市民会館については、多額の改修費と市民会館の耐用年数等を考慮すると、改修は断念せざるを得ないと考えている。今後、市民の憩いの場であり、国指定史跡である古城公園の保存・活用や周辺環境への影響等を考慮し、解体に向けた検討を進める。	ご意見は参考としたい。
23	市民会館などでの学びや文化活動は人間の価値の創造ではないか。高岡には今そうした施設は文化ホールしかない。ひとの力のためには市民会館の見直しが必要ではないか、市民会館がほったらかしになっているように思える。	学びや文化活動は、地域の創造性を高め活性化に資するものと認識しており、生涯学習センターホールやUホール等も有効活用するとともに、まちかどやユニークベニューにおける優れた芸術文化の鑑賞機会や、創造的な活動に携わる市民の交流機会の拡大などに取り組んでまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<芸術・文化活動の支援>全体に記載済

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
24	高岡市は新高岡駅を核として新しい街を作るべきであると思うが、周辺開発が行われていないように感じる。加えて、スポーツコアに体育館が建設予定と聞いているが、未だに具体的な話が出ていないことや、市民会館も依然として閉館中であり、文化施設やスポーツ施設をもっと整備しないと、人を呼び込むことはできないのではないと思う。	新高岡駅周辺は、交流・観光機能を中心とした高次都市機能の維持・誘導を図るゾーンに位置付けている。 これまで、北陸新幹線新高岡駅周辺まちづくり計画において、新駅周辺の土地利用方針や施設整備計画、段階的な整備方針を取りまとめ、北陸新幹線金沢開業時点で必要な施設整備や土地区画整理事業等を行ってきたところである。あわせて、民間施設の立地誘導を図るため土地区画整理事業区域内の建築条件の見直しを行うことにより、ホテルが進出されたところである。 首都圏や関西圏等から多くの人に訪れていただくために、新高岡駅を「飛越能の玄関口」として広域交流を推進し、今後も立ち位置を確立するよう施策の展開を行っているところであり、新高岡駅を起点とした飛越能圏内の各地域との連携により、圏域内の観光地を巡る広域的な二次交通の利便性向上やモデルルート売り込み、旅行商品開発などに取り組み、観光客の呼び込みに取り組んでいる。また、飛驒、能登方面への高速バスを使った旅行プランや特典付与などを展開し、認知度向上に努めている。	既に計画に記載している。 ⇒施策11-②スポーツ施設の充実と効率的な活用の施策の展開<スポーツ施設の整備>の1点目に記載済。
<b>【交流・観光】</b>			
<b>5 高岡の魅力を積極的に発信し、たくさんの方が訪れるようになっている</b>			
	勝興寺の国宝化を目指してほしい。そして、瑞龍寺や勝興寺のような歴史資産を活かした取り組みを進め、真の歴史都市高岡を目指してほしい。2つの国宝のお寺があるとなればより観光的な魅力も増すはずである。〔再掲〕	重要文化財 勝興寺は、20年余りに渡る「平成の大修理」を経て、江戸後期の壮麗な大伽藍が甦っており、その文化財的価値や真宗王国越中の代表的寺院としての魅力を地域住民の皆様はじめ、多くの方々に発信していくことが重要であると考えている。 本市では、国宝瑞龍寺や重要文化財勝興寺等の歴史資産、伝統文化、工芸技術などの高岡の強みや特徴を活かし、発信することを通じて、本市の認知度向上及び観光誘客に取り組んでいるところ。 国宝瑞龍寺では、ライトアップ事業において、高岡御車山祭との回遊性を持たせるためシャトルバスを運行している。今後とも、本市の歴史・文化資産を活かした取り組みを進めていく。（再掲）	既に計画に掲載している。 ⇒施策の展開<歴史・文化資産の保存と活用>に記載済。
	重要文化財として勝興寺、氣多神社、武田家があり、そのほかに重要な建物として太田地区には国泰寺、氣多神社の中にある大伴神社、令和の時代で脚光を浴びている市の万葉歴史館が点在し、国分寺もある。歴史文化1400年前からの歴史をたどれる町である。伏木地区の歴史・文化分野の建物を上手に結びつけ回遊性を持たせて一大観光拠点として開発できたら良い。〔再掲〕	伏木地区、太田地区には、勝興寺をはじめ、港町伏木が受け継いできた歴史・文化資産、海越しに立山連峰を望む雄大な眺望など、ほかの地域にはない特色を有した観光資源が存在している。 これら伏木ならではのすばらしい地域資源を生かし、ストーリー性を加えて個々の資源を結びつけ、観光資源としての価値を高めていく。国内外に向けて発信し、さらなる観光振興と地域の活性化に向けて取り組む。 伏木には伏木地区ストリート構想があり、歴史的資産を結びつけたルートとなっている。このことから、現在、ARなどのデジタル技術を活用することにより、新たな体験や、発見ができるよう、楽しい歩行空間の創出について検討を進めているところ。（再掲）	既に計画に掲載している。 ⇒施策の展開<文化資産等を活かした観光振興>5点目に記載済。
	長野の善光寺の門前町みたいに人が訪ねてきて食事・遊びができて何日も滞在するように、例に挙げた建物を有機的につないでいい街にしたいと考えている。〔再掲〕	本市では、高岡の個性を磨き、魅力を高め、広く市民が高岡の歴史と伝統を再確認し、誇りと愛着を持てるような『歴史都市』を実現するため、平成23年度に歴史まちづくり計画を策定している。今年度は計画策定から10年を迎え、計画期間が終了することから、第2期計画の策定を進めている。 第2期計画においては、越中国府関連遺跡と氣多神社に見る歴史的風致を新たに追加するなど、北部地域を強化することとしており、歴史的建造物等の積極的な保存・活用、歴史的な町並みの保全と周辺環境の調和など、高岡の歴史的風致の維持及び向上を図るための施策に取り組むこととしている。（再掲）	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
25	勝興寺への交通アクセスについて、伏木駅前駐車場からの坂道は観光客にとって負担になることが考えられる。そこで、415号線（十間道路・桜並木）を活用し、勝興寺の横に出て、御亭角に止めるような駐車場の整備や道路標識の設置などを将来的に考えることができないか。	勝興寺の建つ伏木台地一帯は、かつて越中国府が置かれ、現在も越中国府関連遺跡として貴重な地域の文化遺産となっていることから、既存の発掘成果の整理・研究を進めるとともに、住民自らがその価値を認識し、地域の魅力として育て、活用していくことが大切である。 また、伏木駅前観光駐車場は、平成16年の重要文化財勝興寺の本堂修復完成時に合わせて市が整備したものであり、大型観光バス4台、普通自動車21台の駐車スペースを設け、伏木地区に観光に訪れる方々に利用いただいている。伏木地区に観光に来られる方に気持ちよくご利用いただけるよう適正に管理していく。	ご意見は参考としたい。
26	道の駅（万葉の里高岡）について、コロナの影響で、県外ナンバーの自動車が増えてきた。駐車場の増設などをお願いしたい。	道の駅の駐車場について現段階では、充足しており、道路利用状況を踏まえた対応が必要になると考えている。 今後も継続して道の駅の指定管理者において交通量調査を実施するとともに交通量の変化等の状況を把握したうえで検討してまいりたい。	ご意見は参考としたい。
27	瑞龍寺などは観光ボランティアの積極的な活動により、おもてなしの心のある魅力的な観光地となっている。一方、その他の観光施設においては、親切には対応してくれるが、「おもてなしの心」に乏しく、観光客のほうから一歩踏み出さないといけないのが障害になっている。これについて何か対応はできないだろうか。	観光客にまた来たいと思ってもらうためには、市民、事業者、行政が一体となった地域づくりが必要であり、そのためには、市民に地域への愛着を深めてもらい、地域の魅力を再認識し、訪れる人をもてなすというような、官民一体となったまちづくりを展開することが重要である。市民や学生向けの観光振興セミナー等の開催や、観光案内人の育成により、もてなしの心の醸成を推進していく。	既に計画に掲載している。 ⇒施策の展開<もてなしの心の醸成>の1点目及び「ひとの力の視点」の6点目に記載済。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
28	高岡のモノづくり・文化財を活かして、人が来たくくなるような街づくりをしてほしい。高岡には魅力がある。修学旅行の誘致を観光業者と話し合うのはどうか。	ご指摘のとおり、高岡市の有する資源は、「修学旅行」の誘致に有効であると考えており、重点的に実施していきたい。	既に計画に反映している。 ⇒施策の展開<北陸新幹線金沢・敦賀間、大阪全線開業に向けたPR・誘客>の3点目に記載済。
29	高岡市と福岡町と観光ボランティアをしているが、10年前高岡城ガイドしたとき年間2000人だったが現在2~3万人になった。VRを導入する気があるのかお聞きしたい。	VRをはじめとした、デジタル技術の活用については、高岡への立ち寄り増や満足度を高める取り組みの一つとして推進していきたい。	計画に反映する。 ⇒施策の展開<多様な手段による情報発信>4点目に記載。
30	高岡市全体でイベントの開催が減っている。この状況に対し、どのような対策を取っているか。	祭りやイベントは、まちのエネルギーのシンボルであり、「ひとの力」「地域の力」を象徴するものである。市内では、伝統的な祭礼をはじめ、市内各地では獅子舞など様々な行事やイベントが開催されている。しかしながら、少子化・高齢化の進行もある中で、継続することが困難になってくるものもあると思われる。一方で、金屋町（ミラレ金屋町）や山町筋（ヴァレーでのなど）、伏木（ふるこはんフェス）、ユニークベニュー（まちなか）など、近年新たに開催しているイベントも出てきている。また、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、戸出七夕まつりをはじめ、高岡御車山祭や伏木曳山祭など、市内の行事・祭礼・イベントが中止となった。その中でも、万葉集全20巻朗唱の会や福岡つくりもんまつりでは、YoutubeやSNSを活用し、イベントの魅力の世界に向けても発信できたことなど、年度後半からは、開催や発信方法を工夫しながら開催している行事・イベントもある。コロナのほか、行事の担い手不足や高齢化などへの対応を含め、今後とも工夫をこらしながら地域のつながりやよりどころとなる行事やイベントを次の世代につないでまいりたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
31	県西部、飛越能地域の枠を超え、加賀藩としての戦略を強化しては。（石川県としっかり事業していくこと。）	富山県西部と金沢市が連携する金沢・富山県西部広域観光推進協議会において、大人の休日倶楽部趣味の会で「加賀藩学講座」などを首都圏にて実施していることから、さらに取り組みを強化していきたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
<b>6 生活の利便性が向上し、市街地に人が行き交いにぎわっている</b>			
32	まちづくりについて、駅周辺にはビルやマンションが多く建ってきているが、居住者だけでなく、例えば1~2階に商業施設を作るなど、市民が回遊し楽しめるようなまちづくりをしてほしい。	高岡駅前東地区整備基本構想の実現に向け、区内の地権者・住民・企業等で組織されたまちづくり協議会が発足されており、本市においてはこの協議会の運営補助を行うとともに助言や意見交換を行っているところである。今後も高岡駅前東地区まちづくり協議会等の活動を通じて生活利便施設の誘導について民間事業者および地権者等と意見交換を行ってまいりたい。	ご意見は参考としたい。
33	各校下の空き家の問題がある。もう崩れそうになっているところの調査を十分にしてほしい。また対策をお願いしたい。	管理不全な空き家については、地域住民や自治会から情報提供いただき、現地確認、所有者調査の実施、所有者等への助言・指導を行うこととしている。また、令和2年度空き家実態調査を通して、空き家の状況を把握し、所有者等への空き家の活用促進や適正管理促進の取り組み、地域での空き家対策の取り組みのための情報提供の支援等に取り組んでまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<空き家対策の推進>に記載済。
34	古城公園や金屋町などの観光資源があるのに、そこに至るまでに通る末広町の活気がないと、町全体のイメージダウンとなる。末広町の空き家・空きテナントについての対策を行ってほしい。	市では、末広町を含む中心市街地の空き家・空き店舗において、物販、飲食等で出店される方を対象に改装費等の支援制度を設けている。また、リノベーションまちづくり事業の実施を通じ、昨年10月には末広町の空きビルの1階においてカフェ&バーがオープンした。今後もこれらの支援や事業等を通じ、まちなかの活性化を図りたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<商店街の活性化の促進>の1点目に記載済。
35	児童相談所の移転について、旧児童相談所が平米校下にあるので、跡地利用（建物の再活用）について計画などあるのか。	移転後の現児童相談所の活用については、今後県において地元や市を交えて検討されるものと思われる。市としても地元の意見を伺いながら、活用方法について県へ要望してまいりたい。	ご意見は参考としたい。
36	空き屋問題について、長期的な計画はあるのか。	空き家対策を総合的にかつ計画的に実施していくため、平成29年10月に「高岡市空家等対策計画」（計画期間10年間）を策定している。これまでに、空家等の適正な管理の促進や老朽危険空家の除却対策、利活用対策に関する実施方針に基づき、その対策に取り組んでいるところである。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<空き家対策の推進>に記載済。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
37	セリオは少しずつ活性化してきているが、地下がまだ開発されていない。地下にアンテナショップのようなものを定期的に開催するなどはどうか。	御旅屋セリオを管理・運営するオタヤ開発㈱をはじめ、周辺商店街、まちづくり会社などと連携を図りながら、イベントの開催などで、利活用も考えたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
38	高岡市の人口が減少していることに対し、対策として団地の造成が必要ではないかと考える。また、単独世帯のみが住むような団地ではなく、複数世帯が同居できるような団地づくりを求める。	本市では、人口減少・少子高齢社会の中でも持続可能な発展を続けるため「コンパクト・アンド・ネットワークのまちづくり」の実現に向け、まちなか居住の推進と周辺市街地での徒歩や公共交通を利活用して暮らせる居住誘導区域への定住を促進することとしている。そのため、三世帯同居のためのリフォーム支援やまちなかでの隣地購入など、たかおか暮らし支援制度を活用した多世代での同居等の促進に取り組んでまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<定住化のための住宅支援の推進>に記載済。
39	ダイエーの跡地の活用についてどのように考えているか教えてほしい。	本市では、都市計画マスタープランにおいて、旧ダイエー跡地を含む高岡駅周辺ゾーンを、県西部の交通結節点として交流や観光、商業・業務機能を中心とした多様な都市機能を集約する地区としている。当該地区のうちこの旧ダイエー跡地は、民間所有地であり、開発主体である民間事業者により市場調査が実施されるものと考えている。本市としては、先行して民間開発が進んでいる高岡駅前東地区と旧ダイエー跡地とが相互に補完し、相乗効果を生み出すような都市機能が導入されるよう、民間事業者との意見交換や情報提供を行ってまいりたい。	ご意見は参考としたい。
40	現在、自治会に依頼されている「令和2年度空き家等実態調査」をしてみても、 ①前回調査から、3年経っており、その間管理されていない住宅は、老朽化だけでなく、害獣の棲み処になっており、衛生面で問題や、作物の被害が発生している。 ②適切に管理されていないため、雑草の繁茂、樹木の枯れがあり、景観を損なっている。 ③明かりもつかない空き家があると、近所の方は防災面で特に不安がある。と感じた。 このことから、空き家調査を3年に一度ではなく、持ち家の人が転出・転居したとき、聞き取りを行うことで、住居が空き家になるかどうか、市でも把握できるのではないかと。その際、市が発行している「あなたの空き家大丈夫ですか？」のリーフレットを渡し、説明すれば、所有者も管理・対応の必要性をわかると思う。 また、平成25年の調査では、富山県が12.8%に対し、高岡市は14.7%と国や県よりも高い状況となっている。空き家の利活用を高めるためにも、また、転入してもらうためにも、空き家情報バンクへの登録を促していただきたい。	空き家等実態調査については平成25年、平成30年、令和2年に各自治会のご協力のもと、実施しているところであり、地域住民や自治会からの情報提供をいただきながら、空き家の状況を把握し、所有者等への空き家の活用促進や適正管理促進の取り組み、地域での空き家対策の取り組みのための情報提供の支援等を行うこととしている。空き家となる経緯は、物件により様々ではあるが、所有者の転出・転居により空き家となる場合には、その手続きの際に空き家の管理・対応の必要性をご理解いただくことは重要であると考えている。そのため、転出・転居の手続きを行う市民課の窓口等に、空き家に関するパンフレット等を設置するなど、空き家の管理や空き家・空き地情報バンクへの登録の促進を行ってまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<空き家対策の推進>に記載済。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
41	御旅屋セリオに隣接するサンクンガーデン（メルヘン広場）でバスケットボールの3×3を行ったり、藤子不二雄A氏関係者を巻き込んで文苑堂旧本店の復旧活用など、若者が集まる施策を考えてはどうか。	御旅屋メルヘン広場では、親子で楽しめるワークショップや広場のイルミネーションなど定期的にイベントを開催し、まちなかの賑わい創出に取り組んでいる。今後も、若者や子育て世代が集い、交流が促進されるようなイベントを、まちづくり会社などと連携を図りながら、企画・開催していきたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
42	燃費の良い小さな車体を納入するなど無料駐車場の少ない市中心部の公共施設利用者の利便を図る工夫を。	市としては市中心部に集約している基幹的な公共交通を維持存続しつつ、それにアクセスする市民協働型地域交通システムの導入を進めている。導入にあたっては、利用者の人数に応じた車両を考えることになる。将来の公共交通利用へのシフトに向け今後の交通システムの方向性について、地域の方々の意見を伺いながら一緒に考えていきたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
43	国吉地区内でも農地の集積が進み土地持ち非農家が多くなり、核家族を形成する農家分家ができない状態になっている。このような状況を踏まえ、農業投資がなされていない農地を活用した農村地域で、住宅団地が造成できるようにしていただきたい。市街化調整区域になっていて活用できないところもあるため、地域の意見を聞き縛りをなくしてほしい。	都市計画法では、無秩序な市街化を防止し、計画的な市街化を図るため市街化区域と市街化調整区域との区分を定めている。また、市街化調整区域に係る開発行為で住宅団地を目的とする立地基準はない。高岡市都市計画マスタープランでは、この法に基づき土地利用方針において当該地は、良好な農村景観及び農村環境を保全するため、無秩序な市街化の抑制を図るものとしている。	ご意見は参考としたい。
44	勝興寺の完成に伴い観光客は増加するが、迎える食堂、レストラン、喫茶店など全くといっていいほどない。JR伏木駅の中で喫茶店の開業などができないか。	市では、勝興寺など観光地周辺の活性化のため、空き地、空き店舗等で観光土産物産販売店や飲食店の新規開業者を対象に、店舗改装費等を支援している。また、「サービス向上」、「もてなし力の強化」等を図るため、がんばる商店街づくり推進事業により、商店街や個店等が取り組む決済手段への対応やW i - F i等の整備など、観光客等の受け入れ環境の整備に係る経費を支援している。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜創業活動の促進＞の1点目に記載済。
	伏木港に大型豪華客船が入港して20年以上経過した中、伏木外港緑地帯の完成も近いと聞く。伏木地区に都会からの新企業（海外に交流する企業）の誘致に伴う、新しい夫婦の増加をぜひ県と連携して、新伏木づくりを推進していただきたい。〔再掲〕	伏木港に関して、大型外港クルーズ船の入港は、地域への経済波及効果も高く、地域振興に大きな期待が寄せられている。市としては、クルーズ客船の寄港数を増やすため、緑地など受入環境の整備促進についての要望活動や関係機関と連携したクルーズ船の誘致活動に取り組んでまいりたい。また、万葉埠頭に進出された現在建設中のバイオマス発電所の運転が今年秋予定されており、市として税込面や雇用面で大きな期待を寄せているところである。引き続き、新たな雇用創出に寄与する企業誘致が図られるよう、更なる港湾整備等について港湾管理者である県や国に働きかけてまいりたい。（再掲）	既に計画に記載している。 ⇒施策1-③産業基盤の整備・企業立地の推進の施策の展開の＜企業誘致・立地の推進＞3点目に記載済。
<b>7 交通ネットワークを活かし、県西部の中核的役割果たしている</b>			
45	公共交通について、富山市のライトレールのように、高岡の万葉線も均一料金で乗れるようにできないだろうか。また、理想としてはイオンや金屋町まで延ばすことだが、実現は難しいと思われる。その代替としてバスがあると思うが、本数が少ない。乗りやすく使い勝手のいいバスのやり方をお願いしたい。	均一運賃は、運賃収受の簡便さが長所であり、都市部の路面電車など短距離区間の利用が多い路線で、採用されている方式である。万葉線は高岡駅から射水市の越ノ潟まで12.8kmと短くなく、距離の異なる利用者が多く、費用負担の公平性から均一運賃となっていない。市としては市中心部に集約している基幹的な公共交通の維持存続に軸足を置きながら、将来の公共交通利用へのシフトに向け今後の交通システムの方向性について、地域の方々の意見を伺いながら一緒に考えていきたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜公共交通機関の機能充実＞の3点目に記載済。
46	高齢者は免許証を返納したため、市の中心部への移動手段の確保を求める。また、バスなどの公共交通通勤の使用には補助があるのかについても聞きたい。	市では、免許返納等により移動が困難とならないよう、既存の路線維持に努めるとともに、地域に応じた交通手段として地域バスや地域タクシーの導入を提案しているところ。市で免許返納時に公共交通機関等の乗車券を交付しているほかバスなど各交通事業者において高齢者を対象とした運賃割引が行われている。通勤に対する助成制度はないが、例年実施している県・市町村統一ノーマイカー運動では、通勤・通学利用時にバスや万葉線などの公共交通が100円で乗車できる取り組みを行っている。市としては引き続き市民一人ひとりが公共交通を利活用し、守り育てるライフスタイルへの転換に取り組んでまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜公共交通機関の機能充実＞の3点目に記載済。
47	氷見線と城端線の直通化についてJRが動いているが、ライトレール化の実現に向けてスタートを切れるようにしてほしい。	JR西日本からLRTを含めた新しい交通体系の提案を受けて、令和2年6月に県、JR西日本、沿線4市においてLRT検討会を立ち上げ、城端線・氷見線のLRT化の実現方法や、その可能性も含めて検討しているところ。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜公共交通機関の機能充実＞の2点目に記載済。
48	平成30年に高岡市の都市計画のマスタープランの考え方としてはコンパクト・アンド・ネットワークが唱えられていた。伏木地区は高齢化と向き合うために住民が主体となってコミュニティバスの導入計画を進めているが、中心街とつなぐことを含めて実現していただきたいと考えており、補助や支援策をお願いしたい。また中心街とつなぐことを含めて、歴史、文化資産をつなぐ交通ネットワークを充実して欲しい。	市としては今ある基幹的な公共交通の維持存続に軸足を置きながら、今後の交通システムの方向性について、地域の方々の意見を伺いながらと一緒に考えていきたいと考えており、既存の交通事業者との調整を図りながら交通ネットワークの充実を図ってまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜公共交通機関の機能充実＞の3点目に記載済。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
49	横田地域にはオレンジルート、川原地域にはブルールートというコミュニティバスがあったが2018年に廃止になった。しかし現在は、さらなる高齢社会、高齢者の免許返納の時代になっている。高岡市内の高齢化率は34%となっており、川原では38.4%となっている。交通機関がないということは市内の買い物や病院に不便である、生活のためにも地域バスは必要ではないか、それは高岡市全体の活性化にもつながると思っている。	現在、高岡市総合交通戦略の見直しをしている中で、市内の自動車の登録台数や免許保有率の推移などから、団塊世代の免許保有率、車の保有率が高いということが見えてきた。車で自由に移動する団塊世代の方々が、そのまま70代に突入し、高齢化が進む中でも移動の中心は自動車のままであり、まだ公共交通への利用にシフトしていないと考えている。これを踏まえ、市では、これらの方々が免許返納等により移動が困難とならないよう、既存の路線維持に努めるとともに、地域に応じた交通手段として地域バスや地域タクシーの導入を提案しているところ。市としては今ある基幹的な公共交通の維持存続に軸足を置きながら、将来の公共交通利用へのシフトに向け今後の交通システムの方向性について、地域の方々の意見を伺いながら一緒に考えていきたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<公共交通機関の機能充実>の3点目に記載済。
50	高齢者が増える中で、地域としても生活の足について考えており、地域バスの導入を考えているところであるが、地域バスが増えないのはなにか問題があるのではないかと考えている。コミュニティバスこみちに戻れとまでは言わないが、地域バスを導入しやすくするため現在の制度設計の見直しなどなんらかの対策をお願いしたい。	現在、高岡市総合交通戦略の見直しをしている中で、市内の自動車の登録台数や免許保有率の推移などから、団塊世代の免許保有率、車の保有率が高いということが見えてきた。車で自由に移動する団塊世代の方々が、そのまま70代に突入し、高齢化が進む中でも移動の中心は自動車のままであり、まだ公共交通への利用にシフトしていないと考えている。これを踏まえ、市では、これらの方々が免許返納等により移動が困難とならないよう、既存の路線維持に努めるとともに、地域に応じた交通手段として地域バスや地域タクシーの導入を提案しているところ。市としては今ある基幹的な公共交通の維持存続に軸足を置きながら、将来の公共交通利用へのシフトに向け今後の交通システムの方向性について、地域の方々の意見を伺いながら一緒に考えていきたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<公共交通機関の機能充実>の3点目に記載済。
51	城端線・氷見線のLRT化計画の一環として、万葉線を新高岡駅に乗り入れするようにしてほしい。新幹線の利用促進や駐車場有料化に伴う万葉線の活用、学生や社会人の交通の利便性の向上が挙げられると考えられるためである。	JR西日本からLRTを含めた新しい交通体系の提案を受けて、令和2年6月に県、JR西日本、沿線4市においてLRT検討会を立ち上げ、城端線・氷見線のLRT化の実現方法や、その可能性も含めて検討しているところ。万葉線の乗り入れについては、LRT化検討において、具体的な実現方法などが見えてきてからの検討になるものと考えている。まずは城端線、氷見線のLRT化検討の動向を注視していきたい。新幹線利用者など観光客に対する取り組みとして、今年度、国の地域おこし協力隊制度を活用し、地域交通ナビゲーター1名を採用したところ。地域交通ナビゲーターには、既成概念に囚われない都市圏在住者ならではの視点により、地域資源を発掘し、それらと既存の観光資源を万葉線をはじめとする地域交通で繋ぎ発信することで、新たな地域の魅力を創出し、沿線地域の活性化を図っていききたいと考えている。	ご意見は参考としたい。
52	コミュニティバスが廃止されたが、団塊の世代が将来高齢者になったときを想定して、公共交通をもう少し充実してほしい。今だけのことでなく、将来を見据えたまちづくりをお願いしたい。	現在、高岡市総合交通戦略の見直しをしている中で、市内の自動車の登録台数や免許保有率の推移などから、団塊世代の免許保有率、車の保有率が高いということが見えてきた。車で自由に移動する団塊世代の方々が、そのまま70代に突入し、高齢化が進む中でも移動の中心は自動車のままであり、まだ公共交通への利用にシフトしていないと考えている。これを踏まえ、市では、これらの方々が免許返納等により移動が困難とならないよう、既存の路線維持に努めるとともに、地域に応じた交通手段として地域バスや地域タクシーの導入を提案しているところ。市としては今ある基幹的な公共交通の維持存続に軸足を置きながら、将来の公共交通利用へのシフトに向け今後の交通システムの方向性について、地域の方々の意見を伺いながら一緒に考えていきたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<公共交通機関の機能充実>の3点目に記載済。
	高岡市は新高岡駅を核として新しい街を作るべきであると思うが、周辺開発が行われていないように感じる。加えて、スポーツコアに体育館が建設予定と聞いているが、未だに具体的な話が出ていないことや、市民会館も依然として閉館中であり、文化施設やスポーツ施設をもっと整備しないと、人を呼び込むことはできないのではないかと感じる。[再掲]	新高岡駅周辺は、交流・観光機能を中心とした高次都市機能の維持・誘導を図るゾーンに位置付けている。これまで、北陸新幹線新高岡駅周辺まちづくり計画において、新駅周辺の土地利用方針や施設整備計画、段階的な整備方針を取りまとめ、北陸新幹線金沢開業時点で必要な施設整備や土地区画整理事業等を行ってきたところである。あわせて、民間施設の立地誘導を図るため土地区画整理事業区域内の建築条件の見直しを行うことにより、ホテルが進出されたところである。首都圏や関西圏等から多くの人を訪れていただくために、新高岡駅を「飛越能の玄関口」として広域交流を推進し、今後も立ち位置を確立するよう施策の展開を行っているところであり、新高岡駅を起点とした飛越能圏内の各地域との連携により、圏域内の観光地を巡る広域的な二次交通の利便性向上やモデルルートの売り込み、旅行商品開発などに取り組み、観光客の呼び込みに取り組んでいる。また、飛驒、能登方面への高速バスを使った旅行プランや特典付与などを展開し、認知度向上に努めている。(再掲)	既に計画に記載している。 ⇒施策11-②スポーツ施設の充実と効率的な活用の施策の展開<スポーツ施設の整備>の1点目に記載済。
53	少子高齢化社会において、人口減少が進む中、交流人口の拡大を図るため、福岡PAのIC化は有用であると考えている。福岡本線料金所の廃止に伴い、ETC等の問題もなくなったことから、ぜひ推進いただきたい。また、並行して福岡ICと国道8号線をつなぐ連絡道路の整備を進めていただきたい。	福岡パーキングのインターチェンジ化については、本市が目指す「コンパクト・アンド・ネットワーク」のまちづくりの推進、産業・地域活性化や交流人口の拡大等に寄与することから、IC化の実現にむけ、国、県、県道路公社と協議を進めているところである。また、インターチェンジへのアクセス道路についても、並行してルートについて検討しているところであり、市としては、引き続き、関係機関と協議してまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<能越自動車道の整備促進>の2点目に記載済。



No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
54	<p>地域発展のカギを握るのは交通網の整備である。福岡地域として問題にしたいのは、国道8号線の4車線化が立野地域でストップしたままになっていることである。</p> <p>道路は地域発展の基礎となるものであり、道路沿いから産業が生まれ、人の行き来が始まる。能越自動車道が代替道路となっているため、福岡地域の中心部を国道8号線が通るのに通過してもらえない「猫またぎ」の町になろうとしている。早期の4車線化を要望したい。</p>	<p>国道8号の道路の車線数は、道路管理者である国が将来的な交通量を勘案して計画されている。現在、福岡駅前の区画整理事業とあわせ、2車線で拡幅整備が行われており、整備内容としては、交差点部の右折レーンの設置や歩道の拡幅、無電柱化が進められ、交通の円滑化や歩行者の安全性の確保などが図られるものである。市としては、引き続き、早期に完了するよう国に要望してまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
55	<p>他市と連携し互いの祭礼や行事を宣伝し、互いに参加し合う体制を發展させて欲しい。他地区自治会の小さな行事を紹介することで、これから企画・改善しようとする自治会の参考となる。</p>	<p>他自治体との広報紙での情報連携については、最近のコロナ禍での祭礼・行事自体の中止により連携が少ないが、これまで高岡・氷見・七尾広域観光事業促進連絡協議会や高岡地区広域圏の枠組みを活用して、お互いの広報紙でPRや催事を案内するなどの情報連携を続けている。加えて、新高岡駅利用促進に向けた「さあ、新高岡駅から。」コーナーにおいても、北陸新幹線沿線都市と同様の取り組みを続けているところ。</p> <p>また、市内自治会の行事に関する記事については、これまで主に「街で見つけた」や以前連載していた「まちかどワイド」コーナーにおいて適宜掲載に努めてきた。こうした各自治会での活動を紹介する連載記事も念頭に、今後も次期総合計画のキーワードでもある「ひとのちから」の視点を大切に広報紙づくりに努めていく。</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策17-①市民に開かれた市政の推進の施策の展開&lt;わかりやすい行政情報の提供・個人情報保護の徹底&gt;の1点目に記載済。</p>
	<p>燃費の良い小さな車体を納入するなど無料駐車場の少ない市中心部の公共施設利用者の利便を図る工夫を〔再掲〕</p>	<p>市としては市中心部に集約している基幹的な公共交通を維持存続しつつ、それにアクセスする市民協働型地域交通システムの導入を進めている。導入にあたっては、利用者の人数に応じた車両を考えることになる。将来の公共交通利用へのシフトに向け今後の交通システムの方向性について、地域の方々の意見を伺いながら一緒に考えていきたい。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
56	<p>国吉は義務教育学校にはなったが、石堤小学校はなくなった。小学校がなくなると地域はすたれていく。そこをどうしていくのか。</p> <p>また、昨年、加越能バスの路線が廃止になったが、国吉には決まってからしか話が来なかった。高岡と氷見が共同して羽咋線を通っていくバスなど、地域を活性化させるにはどうするかということを考えてほしい。</p>	<p>学校の跡地活用等の諸課題については、関係の方々のご意見をお聴きしながら、市全体の施策を踏まえ、検討を進めてまいりたい。</p> <p>また、高岡羽咋線沿線の氷見市の吉池や坪池地域などでは、住民主体によるバスが運行している。近隣住民同士が連携して自家用有償旅客運送によるバスを運行する際には、氷見市及び地元住民の理解も必要である。地域を活性化の対策について住民の皆様と一緒に検討してまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
57	<p>城端線戸出駅は無人駅ではあるが、地域の学生や高齢者のために安全確保のための人員を地域で設置している。氷見線・城端線の駅の無人化の報道があったため、この報道をどのように捉えているか聞きたい。</p>	<p>駅の無人化との報道があったが、JR駅運営体制の見直しとして、JRとしての職員配置の内容であり、地域の安全確保のための人員に対するものではないと認識している。市としては、地域と協力し、今の状況を守っていききたいと考えている。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
58	<p>以前、万葉線を昭和通りの金屋方面まで延ばす構想があった。高校生の足の確保、観光客の導線確保、地域の利便性向上からも実現するとよいと思っていた。その後の対応はどうか。</p>	<p>万葉線では、沿線人口減少および少子化による児童・生徒数の減少、新型コロナウイルスによる影響の中、限られた予算内で運営している状況である。今後も庄川橋梁の架け換えをはじめ、施設・車両の老朽化による更新費用や修繕費用に対応していくため、まずは健全な経営基盤の強化が急務となっている。</p> <p>万葉線の延伸については、地域住民はもとより市民の皆さんの合意形成がまずは重要である。昭和通り延伸の具体的な取り組みに際しては、片側2車線の道路車線を維持しながら万葉線利用者の安全確保を図るため、交通島電停の設置が必要となってくる。そのためには、昭和通りの拡幅とそれに伴う用地の確保、鳳鳴橋の改修などハード整備の課題に加え、営業見通しそのものを詳細に検討していかなければならず、道路管理者など関係機関との十分な協議、調整のもとで進めるべきものと認識しているが、現在の万葉線の経営状況からはなかなか厳しいと考えている。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
【子育て・教育】			
8 安心と希望、ゆとりを持って子育てを楽しんでいる			

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
59	放課後児童育成事業について教室が不足している。これは核家族化の進行や、共働き世帯の増加、対象児童が増えているためと思われる。さらに現在のコロナ禍による3密対策も要因と考えられる。また、放課後児童支援員が不足している。現役世代を退いた教育者や保育士をはじめ、アクティブシニアを活用するなど、支援員不足対策を講じてほしい。	放課後児童クラブの拡充については、各小学校区での需要ニーズ等を参考としながら市内での優先順位を決め、受け入れ環境の確保を進めている。 既存公共施設、学校の余裕教室の利用など、各地域の状況に応じて対応してまいりたい。 クラブの支援員については、市のホームページや広報紙による募集や、保育士等養成施設の学生、子育てシニアサポーターの紹介などにより確保に努めている。退職教職員については、近年、再任用に加え、産育休等の教職員の代員のニーズも多く、引き続き講師として学校で勤務する場合も増えている現状にあるが、今後、地域において教職の経験を活かす場として、放課後児童クラブの支援員についても情報提供するとともに、課題の解決に向けて協力していきたい。 引き続き、増加する放課後児童クラブのニーズに対しては、受入れ環境の確保に努めるとともに、民間活力の活用もしながら、本市の放課後児童クラブの充実を図ってまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<放課後児童クラブの充実>に記載済。
60	2050年の日本の姿が心配されている。市政は政治の根源「人」を提唱しており、大いにエールを送りたいが、「生まれる人」に着目してもらいたい。なぜ伏木の出生率が市内第1位なのか。課題は多いが、まずは「出生率を上げる工夫」が必要。方法として、今の「子ども食堂」の昼食を毎日出せる仕組みづくりを具体的に進めては。	「子ども食堂」については、子どもたちが生まれ育った環境に左右されず健やかに育つことを推進するため、食事その他の生活環境が十分でない子どもを地域で支えることが主な目的となっており、市内では、地域住民や関係団体による子ども食堂は4箇所開催されている。本市においては、まず、子ども食堂の実施箇所が増加するように引き続き支援に取り組んでまいりたい。	ご意見は参考としたい。
61	病児保育施設について、県からも増やしてほしいと話が出ていると思うが高岡市では、年数が経過しているのに対して3施設しか増えてない。基本理念に即していないと思う。	富山県内の病児・病後児保育施設の設置状況は、南砺市が7施設、富山市が6施設、小矢部市が2施設、射水市、氷見市、砺波市が各1施設となっている。高岡市においては、病後児保育施設が2施設、病児保育施設が3施設あり、計5施設が病児保育に対応している。 令和2年度に県が実施した病児・病後児保育施設事業者に対するアンケート調査によると、病児・病後児保育の運営における課題として「利用が少ない」や「利用児数が日々変動する」との意見があった。一方、病児・病後児保育については、働く保護者からのニーズが高い保育であると認識しており、まずは、既存施設の利用が進むよう、利便性を高めていくことが重要であると考えている。 県では、令和2年度末を目標に各施設の概要や利用状況等について確認できるシステムを構築される予定であり、本市としては、このシステムを活用し、病児保育施設の利用状況などの周知に努め、サービスを希望する保護者にとってより使いやすいサービスとなるよう取り組んでまいりたい。	計画に反映する。 ⇒施策の展開<多様な教育・保育サービスの充実>に記載。
<b>9 教育を通じて個性を磨き、生きる力を高め合っている</b>			
62	高岡市教育将来構想検討会議において、再編統合の実施計画（平成30年度～令和9年度）が推進されているところ、「中田中学校区においては、令和9年度から学校整備に向けた準備に着手する」というものであるため、第4次基本計画期間内に施設形態など具体的な基本計画を提示する年次表を盛り込んでほしい。	再編統合に伴う施設整備については、今後10年を見据えた高岡市における小中学校の配置について示したところであり、長期的な見通しを持ちつつ、広くご理解をいただきながら、手順を踏んで整備に努めていきたいと考えている。 地域の皆様と意見交換をさせていただきながら、教育将来構想検討会議の意見を踏まえ、個別の実施計画を策定していきたいと考えている。	ご意見は参考としたい。
63	10年以内に太田、古府、伏木の小学校がなくなり、新たに伏木中学校区内に一貫の小学校ができると聞いているが、一刻も早く実現していただくよう取り組んでいただきたい。	再編統合に伴う施設整備については、今後10年を見据えた高岡市における小中学校の配置について示したところであり、長期的な見通しを持ちつつ、広くご理解をいただきながら、手順を踏んで整備に努めていきたいと考えている。	ご意見は参考としたい。
64	小学校の統廃合問題である。西部校区では高岡西高校が令和4年3月で終わり、令和6年から小学校が統合され一緒になっていく。川原小は130年あまりの大変長い歴史がある。川原校下としても小学校がなくなることから、跡に残される小学校などはどうなるのか。市で考えてもらえばよいが、平成9年の校舎で比較的新しいものとなっており活用をお願いする。	跡地利用については、地域の皆さんの思いもあることから、今後、関係の方々のご意見をお聴きしながら、市全体の施策を踏まえ、検討を進めてまいりたい。	ご意見は参考としたい。
65	横田小学校跡地の利活用について、自治会としては、学校統合に向けて跡地がどうあるべきかという活用検討し行政に要望としてあげようなどという話も出ている。そのタイミングとしていつ頃がよいのか、2022年2023年あたりか、時期的な感覚を知りたい。	跡地利用については、地域の皆さんの思いもあることから、今後、関係の方々のご意見をお聴きしながら、市全体の施策を踏まえ、検討を進めてまいりたい。	ご意見は参考としたい。
66	五位小学校が建設されると、一般車両の通行量が増え、子供たちの通学が大変になってくると思われる。特に、立野鴨島線から北側に行く道路の整備をお願いしたい。また、学校の整備に伴い、若い夫婦や子供たちが増えるような土地・環境づくりをお願いしたい。	五位中学校区の新統合小学校までの通学路については、安全対策を実施していきたいと考えている。道路整備や土地・環境づくりについては、関係課と課題の共有をしてまいりたい。	ご意見は参考としたい。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
67	小学校の統合について、地元からいろいろな意見が出ている。児童たちはバス1台(30人乗り)に乗って通っているがギリギリな状態である。これから冬場を迎え、さらにぎゅうぎゅうになることが予想される。	石堤地区については、公共交通の活性化の観点から、既存の石堤線を活用してバス通学をしている。バス車輛については、乗車定員は約55人となっている。全ての子供が座れる状態ではないが、ご理解いただきたいと考えている。	ご意見は参考としたい。
68	万葉小学校の生徒数は、5年後に半減することが予想されるが、平成30年の説明では、10年後の計画の中に見直しや検討・協議が計画されていない。小中連携校の具体的内容の評価も示されず、不詳である。学力向上や情報総合教育の教育環境の整備のため、小中一貫校の検討・協議が必要と考える。	高岡市の人口は、30年後の2045年度には、おおよそ4分の3の規模となると推測されており、それとともに、本市の児童生徒数は減少していくものと認識している。 このような状況から、今後も引き続き学校の規模や配置に関する課題は生じてくるものと考えているが、まずは本年2月にお示しした「今後10年を見据えた高岡市における小中学校の配置について」の対象中学校区の保護者、学校関係者、地域の皆様のご理解をいただきながら、着実に進めていきたいと考えている。 今回の再編以降については、状況変化を踏まえ、新たな検討を重ねていくことが必要と考えている。 小中一貫教育については、市内全ての中学校区において推進しており、さまざまな形がある。施設形態としては「一体型」「隣接型」「分離型」があり、小・中学校が離れた立地にある中学校区においても、育てたい子ども像などの教育目標を共有するなど、相互の連携協力を密接にし、それぞれの校区の特色を生かした小中一貫教育を推進する。	ご意見は参考としたい。
69	富山大学の芸術文化学部と連携して活動している。今後は、大学との連携による地域おこしのための組織作りができればいいと考えており、その支援をしてほしい。	人口減少・高齢化が進んでいる中、高等教育機関が長年かけて蓄積した人材・情報・施設が、社会の資産として有効に活用され、地域振興の担い手となるよう産・学・官の連携が重要である。 市内高等教育機関である富山大学芸術文化学部と高岡法科大学はもとより、近隣の高等教育機関とも積極的に連携を進め、地域振興に関わる人材等の拡大を図る。 富山大学芸術文化学部においては、昨年度、市内の身近な文化財や風習を調査し、地域の公民館で展示する「地域／私のヴァナキュラー」を企画し、二上地区の自治会・町内会の皆様には、取材や公民館の使用についてご協力いただいたと伺っている。新型コロナウイルス感染症の影響で、今年3月に予定されていた展示会の開催は見送りとなったが、このような地域と関わりあう取り組みを継続していくことが、二上周辺の活性化につながるものと考えている。今後も地域と大学の連携・協力をお願いしたい。	ご意見は参考としたい。
70	プログラミング教育が小学校で始まるが、先生自身が教育されていない。専門でプログラミング教育をしている人を知らないかと相談されたことがあった。市としても補助できるようにしていただければと思う。	市教育センターが中心となり、高等研究機関や民間事業所等々の協力も得ながら、全ての教員が基本的なリテラシーを身に付けるよう、計画的に進めていくこととしている。 ICT教育推進リーダー等からなるICT活用推進委員会では、学習専用端末で使用するアプリケーション等の活用研修を進めてきている。 また、教員のICTリテラシーや指導力の向上、さらには機器のメンテナンス等には専門性の高い支援員等の確保が必要であると考えている。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
71	令和4年に定塚小学校と平米小学校の統合に伴い、計画では平米小学校の校舎が空くことになり、小学校は平米校下の中心に位置しているの、小学校の跡地利用(建物の再活用)について計画などあるのか。できれば、公共施設に入っていただきたい。または、民間でもいいので、人が集まる場所にしてほしい。	跡地利用については、地域の皆さんの思いもあることから、今後、関係の方々のご意見をお聴きしながら、市全体の施策を踏まえ、検討を進めてまいりたい。	ご意見は参考としたい。
72	野村小学校は令和6年には200名程度の児童数の増加が見込まれるが、児童数の増加において校舎の対応は可能か。新規で学校を創る必要はあるのか。また、少人数学級における教育について聞かせてほしい。	教育委員会による、「令和3年度以降児童数見込調」では、令和6年度の野村小学校の児童数は、753名(R2年度野村小在籍数641名)であり、調査では、110名程度の増である。しかし、弾力化対象地域から、毎年20名程度、近隣の小学校へ入学を変更していることを考慮すると、令和6年度の児童数の増は、約30名程度と考えている。 少人数学級は、国が検討を始めたところであるが、対応できる範囲であると考えている。 少人数学級は、国が1学級あたりの人数の基準を決める。現在、30人学級や35人学級の検討を始めたところである。例えば全学年35人学級が実現されたとすると、普通学級数の増は3学級と予想される。仮に、30人学級が実現されたとすると、学級数は6学級の増となる。特別教室やプレイルームを普通教室に転用するなどの対応が必要である。	ご意見は参考としたい。
73	SDGsの4番目である「質の高い教育」について、芳野校下の学校において、達成のためにどのように取り組んでいるのか。また、タブレット等によるITを利用した教育が、現在どのように進んでいるのか、また今後どのように進めていくのか教えてほしい。	市内全ての中学校区において、小中一貫教育のグランドデザインを策定し、9年間の児童生徒の成長に即して、地域の特色を生かした多様な取り組みや活動を実践している。 1人1台の学習専用端末を配備し、インターネットを活用した自由研究や海外の学校とのオンライン交流の実施など、主体的・対話的で多様な学びの充実に努めている。さらに、今後は高速大容量の通信回線や大型ディスプレイ、電子教科書、学習支援アプリケーションなどを一体的に活用していく。	ご意見は参考としたい。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
	<p>国吉は義務教育学校にはなったが、石堤小学校はなくなった。小学校がなくなると地域はすたれていく。そこをどうしていくのか。 また、昨年、加越能バスの路線が廃止になったが、国吉には決まっからしか話が来なかった。高岡と氷見が共同して羽咋線を通してバスなど、地域を活性化させるにはどうするかということを考えてほしい。 [再掲]</p>	<p>学校の跡地活用等の諸課題については、関係の方々のご意見をお聴きしながら、市全体の施策を踏まえ、検討を進めてまいりたい。 また、高岡羽咋線沿線の氷見市の吉池や坪池地域などでは、住民主体によるバスが運行している。近隣住民同士が連携して自家用有償旅客運送によるバスを運行する際には、氷見市及び地元住民の理解も必要である。地域を活性化の対策について住民の皆様と一緒に検討してまいりたい。(再掲)</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
74	<p>市内初の義務教育学校はできたが、学びを連続して支援していく体制が進んでいないのが危惧される。せっかくできた市内初の義務教育学校、この良さをどのように発信していくか、次にどのようにつなげていくか、先生たちもゆとりをもって学びを支援していくようになったらよいと思う。</p>	<p>市内全ての中学校区においては、小中一貫教育のランドデザインを策定し、地域の特色を生かした取組を進めることとしている。今後は、中学校区毎に、学習指導や生徒指導、児童生徒活動などを推進するための部会組織を設け、小中学校で協議を行いながら、活動の着実な推進と充実を図りたい。 また、国吉義務教育学校における外国語やプログラミング教育、ふるさと未来科など、特色ある授業実践を他校の教員に公開する機会を設け、効果的な取組を市内に普及する。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
<p><b>10 いくつになっても興味のあることを気軽に学べている</b></p>			
75	<p>地域の獅子舞や祭りについても青少年の育成につながっていると思う。しかし、青年会や婦人会が廃止となる地域もあり、地域の触れ合いが減ってきている。地域レベルの小さい集まりが減っていることに対し、具体的な対策を立てているのか伺いたい。</p>	<p>本市としても、子どもたちが地域の行事やイベントに積極的に参加することで、地域を再発見し、愛着を持ってもらう機会になると捉えており、学校・家庭・地域が連携して青少年の健全育成に取り組むことが重要だと考えている。 引き続き、公民館や青少年団体を通じて支援を行うとともに、地域ごとの取組事例など情報発信にも取り組んでまいりたい。</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策の展開の＜青少年育成のための地域ぐるみの取り組みの推進＞1点目に記載済。</p>
76	<p>川原校下の公民館の今後のあり方である。公民館については教育委員会からも話は来ているが、公民館がなくなると同時に保育園もなくなると聞いている。川原校下から公共施設がなくなっていくのではないかと心配している。生涯学習のためにも公民館の活用を。</p>	<p>教育委員会では、昨年の7月下旬から市立公民館単位で地域懇談会を開催し、公民館の有効活用について、地域の皆さんと意見交換を行っている。今後、そこでの意見を踏まえ、教育将来構想検討会議において、活用方策等について提言を取りまとめることにしている。市としても、地域コミュニティの核として、有効に活用していただきたいと考えている。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
77	<p>公民館を機能、利便性(使い易さ)から5段階評価(五つ星～一つ星)に区分し、評価の低い公民館は行政が改善プランを作成すべきと考える。地域コミュニケーションの原点は町中の公民館であり、大人と子どものふれ合い、子どもを育む取り組みも公民館が最適である。地域住民も適切な場があればもっと参加すると確信している。 市は、公共施設再編計画により、市立公民館については1地区1公民館に固執しているが、問題なのは「公民館」の中身である。極端な言い方をすると和室1室と会議室1室及び事務室のみで後は何にもない場合でも「公民館」と数えられることである。 人は皆「こんな事をやって見たい、身に付けたい」と言う願望がある。例えば、料理実習や木工や健康体操等。 従って、多種多様な活動が可能のように、環境を整備することが必須である。人生で身につけた特技や能力もそれぞれである。これらは、地域社会の貴重な「資源」で有り、地域の人々を元気に、幸福感を高めるものと確信する。これを実現する仕掛けがアットホームで設備の充実した「町中公民館」である。</p>	<p>教育委員会では、昨年の7月下旬から市立公民館単位で地域懇談会を開催し、公民館の有効活用について、地域の皆さんと意見交換を行っている。本日で36市立公民館での地域懇談会を終えることとしており、連合自治会長様をはじめ、多くの方々から積極的な意見をいただいている。そこでの意見も踏まえ、将来構想検討会議において、活用方策等について提言を取りまとめることにしている。 市内にある36の市立公民館は、これまでの地域の歴史や文化などを踏まえながら現在の形を継承してきており、多くの皆さまに積極的にご利用をいただいている。 ご指摘いただいたように、客観的な現状評価を行い、具体的なアドバイスをしながら、より有効な活動を後押ししていくことも大切であり、元気で活力ある地域づくりに向け、市としても利用しやすい公民館となるよう努めてまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
78	<p>コロナの時代にあって外での活動を活発にするため、若者を元気にするためにハイキング場やキャンプ場、西山丘陵から二上山に抜けるような散歩コースなどを開発できないか。また、新たに作るばかりでなく、二上まなび交流館を磨き上げたりすることで、外で気持ちよく活動できるようなことができるよと思っています。</p>	<p>本市では、身体活動や運動に関する知識を普及啓発するとともに、誰もが気軽に参加できる健康ウォーキング教室や歩こう会等を開催し、健康寿命の延伸を目指している。また、二上山の魅力伝えるため、「二上山となかよくなるガイドブック274」を作成している。ドライブコース、ハイキングコース(3コース)の他、各名所の説明や二上山周辺の案内も加えている。市内の小中学校や県内外の訪問客からの照会の多い冊子である。高岡市HPからもダウンロードできるようにしている。今後も活用していきたいと考えている。一方、二上まなび交流館は令和2年度で廃止とすることとしている。</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策13-①生涯を通じた健康づくりの推進の施策の展開＜生涯を通じた健康づくりの推進＞1点目に記載済。</p>
<p><b>11 いつでも気軽にスポーツを楽しんでいる</b></p>			

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
	高岡市は新高岡駅を核として新しい街を作るべきであると思うが、周辺開発が行われていないように感じる。加えて、スポーツコアに体育館が建設予定と聞いているが、未だに具体的な話が出ていないことや、市民会館も依然として閉館中であり、文化施設やスポーツ施設をもっと整備しないと、人を呼び込むことはできないのではないかと思う。〔再掲〕	新高岡駅周辺は、交流・観光機能を中心とした高次都市機能の維持・誘導を図るゾーンに位置付けている。これまで、北陸新幹線新高岡駅周辺まちづくり計画において、新駅周辺の土地利用方針や施設整備計画、段階的な整備方針を取りまとめ、北陸新幹線金沢開業時点で必要な施設整備や土地区画整理事業等を行ってきたところである。あわせて、民間施設の立地誘導を図るため土地区画整理事業区域内の建築条件の見直しを行うことにより、ホテルが進出されたところである。首都圏や関西圏等から多くの人に訪れていただくために、新高岡駅を「飛越能の玄関口」として広域交流を推進し、今後も立ち位置を確立するよう施策の展開を行っているところであり、新高岡駅を起点とした飛越能圏内の各地域との連携により、圏域内の観光地を巡る広域的な二次交通の利便性向上やモデルルートの売り込み、旅行商品開発などに取り組み、観光客の呼び込みに取り組んでいる。また、飛騨、能登方面への高速バスを使った旅行プランや特典付与などを展開し、認知度向上に努めている。(再掲)	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<スポーツ施設の整備>の1点目に記載済。
79	県営の高岡武道館はどうなるのか教えてほしい。	県が新たな武道館を整備する際、富山武道館と高岡武道館の統廃合を検討し、今後、地元市をはじめ関係方面と十分協議するものと思われることから、今後の議論の進み具合を踏まえ、意見を申し上げることになると考えており、議論の動向を注視してまいりたい。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開<スポーツ施設の整備>の1点目に記載済。
<b>【安全・安心】</b>			
<b>12 誰もが生き生きと自立して暮らしている</b>			
80	木津地区は人口も世帯も増えている。一方、地域で殺人事件があったが、人とふれあうことの少ない世帯であった。地域とのふれあいがあれば違っていただかぬかもしれず、自治会活動にも参加されないような、人と触れ合うのが苦手だという人に対してどのように対応していけばよいか。	地域で開催される様々な事業に参加を促していくことは、高齢者や一人暮らしの方が元気に生活いただく上で、大変重要なことと考えている。一方で、交流の場への参加を望まない方については、健康状態や認知症状などの理由があることも考えられる。気になる状況等があった場合には、高齢介護課又は地域包括支援センターへご相談いただきたい。また、参加に消極的な方については、どのような交流であれば参加したいのか、例えばアンケートなどを実施してニーズを把握することも交流の第一歩と考える。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
81	高齢化・定年延長などで、ボランティア組織に関与できる対象者の絶対数が減少してきており、人的負担の大きさに大変苦慮している。そのため、担い手が少ない地域でも組織を維持又は、組織に関与できるよう、組織の統廃合や、組織の設立に係る地域等の拡大が必要であると考えている。	地域には、各部局から様々な目的別組織の委員選出等を依頼しているところであるが、高齢化や定年延長などの社会構造の変化により、担い手不足で苦慮されていることは認識している。その担い手不足を解消する手段の一つとして、人口減少が深刻な自治体では、小規模多機能自治型などの団体を統合・集約した新しい組織により地域運営をする動きがある。本市でも、各地域に適した組織について、地域の皆様と一緒に検討して参りたい。また、地域活動の内容によっては、隣接する地区と合同で行うことで互いに負担を軽減することが見込まれる。例えば、同じ千鳥丘小学校区である立野地区と協力することも一案と考える。	既に計画に記載している。 ⇒施策16-①市民が主役の地域づくりへの支援の「ひとの力」の視点の2点目に記載済。
82	みんな仕事をしており、ボランティアをしてくれる人が本当に少なくなった。ボランティア活動に参加してもらえるような仕組みをつくってほしい。	ご意見のあった「住民の参画を促す取組み」については、会合やイベントの短時間化や回数を見直すことなどにより負担を減らすことで、気軽に参加できるようにすることが重要と考えている。他の自治体の先進事例等の調査・研究を行い、自治会の方々と協力しながら、行政として効果的な支援を検討して参りたい。また、活動の再構築については、地域の皆さまが主役として活躍できる場の創出のため、課題を発見し、解決するための話し合いの場を創出し、市の関係部局が参画・助言する体制を構築していきたい。課題が明確になると、解決のための事業化を図るなど、活動の活性化につながっていくことが期待される。必要な事業に対して適切な組織を構築し、持続的な運営を行っていくことが必要と考えている。	計画に反映する。 ⇒施策の展開<ボランティア・NPO活動の充実>及び「ひとの力」の視点に記載。
83	高齢化が進む今、交通手段の福祉対応は欠かせない。病院通い、買い物のための福祉タクシーや福祉バスの運行、地域を巡回する路線マイクロバスなども新たに考えてもらえないか。	在宅で日常的に車椅子を利用している方や寝たきり状態の方に対し、医療機関などへの送迎を支援することを目的としてタクシー利用券を交付し、福祉車両タクシー料金の一部助成を行っている。また、福岡町地域の住民の移動や小・中学生の通学的手段として、福岡町中心部と大滝地区を含む平野部郊外や中山間地域を結ぶ6路線12系統の公営バスを運行している。70歳以上の方の乗車料は無料としており、積極的にご利用いただきたい。今後とも、高齢者等の移動手段の確保と利便性の向上を図るとともに、公営バス路線の維持に努めたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
84	<p>今後、入浴施設の機能の停止が予定されており、このことに対し「こぶし荘利活用促進委員会」が設立され、スムーズに運営がされるように議論されているが、地元赤丸自治会に対しても十分わかりやすく丁寧な説明をいただくよう、地域活力の維持・活性化に向けて格別のご配慮をお願いしたい。</p> <p>また、人口減少が進む中、住民相互の交流活動が図れる地域コミュニティ活動の活性化は有効であると考え、活動の推進にあたっての支援をお願いしたい。</p>	<p>こぶし荘の件については、地元自治会の役員を含め、福岡地域の様々な立場の方に施設の状況や所有者である市社会福祉協議会の意向、福祉目的の入浴施設に対する市の考え方などを説明しながら取り組んできた。</p> <p>令和2年2月には、福岡町地域自治会連合会の役員（赤丸会長含む。）をはじめ、社会福祉協議会、市の担当課で構成する利活用促進委員会が立ち上げられ、その後4回にわたって委員会を開催し、令和3年4月以降の施設運営の大枠を固めてきた。</p> <p>今後もこぶし荘を運営していくに当たっては、地元赤丸を含む福岡地域の皆様のご支援とご協力が欠かせないと考えている。来年度以降も利活用促進委員会この枠組みを尊重しながら、そこで議論される様々な取り組みに対し、できる限りの支援をしてみたい。</p> <p>また、地域の活性化のために、本市の関係部局が各地域の課題解決のための話合いに参画して助言するなど、地域に寄り添った支援を行っていきたい。</p>	<p>既に計画に記載している。</p> <p>⇒施策16-①市民が主役の地域づくりへの支援の施策の展開の共創の基盤の強化＜地域における共創の手法の活用＞＜住民が主体となる地域づくり＞にそれぞれ記載済。</p>
85	<p>ジュニア福祉活動員について小学校の5年生6年生に限らずもっと柔軟に考えてはどうだろうか。子どもたちの情操教育などでもあるが、高齢者は非常に喜ぶ、年齢が小さいほど喜ばれる。高齢者を見守るというだけではなく、子どもと高齢者が相互に見守るという観点からも学年にこだわらずにお願いしたい。</p>	<p>福田地区では、平成10年からジュニア福祉活動員の取組みをスタートされ、地域の一人暮らし高齢者等のお宅への友愛訪問を続けられており、学齢期から地域福祉活動に参加することは、「福祉のこころ」を育むだけでなく、地域に世代間の交流が生まれるといった効果があると考えている。</p> <p>本市では、このような活動を後押しするため、平成14年度から平成30年度まで、ジュニア福祉活動員の活動補助を行ってきた経緯があり、南条小学校区においても、平成14年度から平成16年度に補助金を交付し、重点的に活動をしていただいた。</p> <p>これからは、地域の自主的な福祉活動を支援する「あつまり福祉ネット推進事業」の取組みとして、ジュニア福祉活動員として活動する学年や人数等を地域の実情に合わせて柔軟に変更いただくなどしながら、事業を継続していただきたい。事業の実施にあたり、課題等があれば、市又は社会福祉協議会までご相談いただきたい。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
86	<p>富山市は、認知症患者が法律上の損害賠償責任を負った場合、本人の負担を保険により肩代わりするという保険制度を導入しているが、高岡市においても同様の制度を取り入れているのか聞きたい。</p>	<p>認知症保険については、いくつかの自治体において、早期診断の促進や行方不明時の捜索等と併せて、認知症の方の事故を補償する民間保険への加入を支援する取り組みが始まっている。</p> <p>国では、これらの事例を収集し、政策効果の分析を行うこととされており、本市としては、その動向を注視してまいりたい。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
<p><b>13健康的な生活を送り、必要な時に適切な医療を受けられる</b></p>			
87	<p>インフルエンザ予防接種について高岡市は有料である、無料化などができるか検討してもらえないだろうか。</p>	<p>インフルエンザの予防接種については、流行阻止の効果は示されていないものの、重症化防止の効果はあるとされており、予防接種法に基づく定期接種の対象者となっている65歳以上の方及び60歳から64歳の心臓、腎臓、呼吸器等に障がいのある方の接種を実施している。</p> <p>接種費用については、市町村ごとに定めることとなっており、本市では費用の一部を助成させていただき、1,600円を自己負担額として市民の皆様にご負担いただいている。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
88	<p>コロナで一番感じた事は、いろいろな情報がテレビからは知りえたが、行政からは情報をほとんどもらえなかった。情報が来ず、どうしたらよいかわからなかったので、とりあえず集会などは中止にしてきた。行政には、正しい情報（予防法など）を伝えてほしい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症に関する情報については、広報紙やホームページで、市長メッセージをはじめ、公共施設・イベントの開館・実施状況、相談・受診体制の案内、各種支援策の案内等を提供している。また、コロナ対策本部の開催にあわせてプレス発表をするなど、新聞や民放テレビなどでの情報発信にも努めてきたところ。民放テレビだけではなく、メディアミックスな情報発信が効果的であると考えている。今後とも、時機を逸することがないよう、市民にタイムリーな情報をお届けしていく。</p>	<p>既に計画に記載している。</p> <p>⇒施策の展開＜健康危機への対策＞に記載済</p>
89	<p>新型コロナウイルス感染症に関し、クラスターを発生させない観点から住民全員の定期的な検査の実施と感染者の治療を。</p>	<p>国の検査体制の拡充に向けた指針では、行政検査について「感染拡大を防止する必要がある場合には、地域の関係者を幅広く検査することが可能であるので、積極的な検査を実施するよう」、県に求めており、引き続き適切な行政検査が実施されると考えている。</p> <p>また、高岡市民病院は、高岡医療圏唯一の感染症指定医療機関として、感染者の治療に万全を期し、住民の生命を守っていく。</p>	<p>既に計画に記載している。</p> <p>⇒施策の展開＜高岡市民病院の医療提供体制の充実＞の2点目に記載済</p>
90	<p>コロナの時代にあって外での活動を活発にするため、若者を元気にするためにハイキング場やキャンプ場、西山丘陵から二上山に抜けるような散歩コースなどを開発できないか。また、新たに作るばかりでなく、二上まなび交流館を磨き上げたりすることで、外で気持ちよく活動できるようなことができるよといっている。〔再掲〕</p>	<p>本市では、身体活動や運動に関する知識を普及啓発するとともに、誰もが気軽に参加できる健康ウォーキング教室や歩こう会等を開催し、健康寿命の延伸を目指している。また、二上山の魅力伝えるため、「二上山となかよくなるガイドブック274」を作成している。ドライブコース、ハイキングコース（3コース）の他、各名所の説明や二上山周辺の案内も加えている。市内の小中学校や県内外の訪問客からの照会の多い冊子である。高岡市HPからもダウンロードできるようにしている。今後も活用していきたいと考えている。一方、二上まなび交流館は令和2年度で廃止とすることとしている。（再掲）</p>	<p>既に計画に記載している。</p> <p>⇒施策の展開＜生涯を通じた健康づくりの推進＞1点目に記載済。</p>
90	<p>新型コロナウイルスの感染拡大については、富山県の人口が少ないから拡がる率も多くないと思われる。「ケース・バイ・ケース」のマスクの取り外しを「高岡市カラー」で発信していただきたい。</p>	<p>新型コロナウイルス感染症感染予防対策は、マスク着用や手洗いが基本であり、感染拡大状況は日々変化するが、市民の健康・安全を守るために、引き続き、マスク着用を含めた基本的対策をお願いしたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
<p><b>14 地域の人々の手で環境が守られている</b></p>			

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
91	自治会としてごみ集めなど行っているが、佐野地区の道路にごみを捨てている人が多い。これは不特定多数ではなく特定多数の人たちだと考えられる。国道だけでなく農道なども同様であり、用排水などにごみが落ちればそのまま海洋まで出ていくものにもなる。現在はごみ集めでなんとかとどめているが、こうした箇所に注意喚起のための看板などを設置してもらえないか。	ポイ捨てごみ、不法投棄の対応は、原則として土地の所有者・管理者が行うこととなっているが、地元自治会等で対応が困難な場合や状況が複雑な場合については環境サービス課までご相談いただきたい。 市が管理する道路・土地等について看板・監視カメラの設置希望があった場合には、状況を聞き取りしたうえで市の看板及び県の監視カメラを貸与している。なお、国・県が管理する道路・河川等については、相談内容を管理者に伝え対応をお願いしている。 今後とも、国・県・市・警察が連携を図りながら、更なる不法投棄の防止・処理に努めてまいりたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
92	桜並木と桜まつり有名な岸渡川の草刈りについて、犬走という場所が10年ほどごみがたまって撤去されていない。市に相談したが、そこは危なくてできないといわれたが草も生えており、何とかしたい。	河川に関する相談を受けた場合は、河川管理者である県に内容を管理者に伝え対応をお願いしている。今後とも、県と連携し環境美化の維持に努めてまいりたい。	ご意見は参考としたい。
<b>15 安全で快適な生活を送っている</b>			
93	住みやすく暮らしやすい街づくりにおいては、生活を支える基盤である下水道のインフラは不可欠であるので、中田地区における既存の農業集落排水処理施設の限界を含め、下水道整備の現状及び下水道計画に基づく今後の具体的な整備方針は、どのようなものか。	中田地区の公共下水道については、現在、下麻生地区および常国地区の整備を進めている。 現在、県において本市と砺波市をまたぐ流域下水道高岡庄川幹線の整備計画について検討が進められており、当該地区における公共下水道整備については、県流域下水道計画と整合性を図りながら進めていきたい。 農業集落排水処理施設については、農業集落排水処理施設最適化構想に基づき改築・更新を進めていきたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
	庄川左岸地域は、国営総合農地防災事業は終了している。 庄川右岸地域にある中田地区においては、庄川右岸の用排水路は60年以上が経過しており老朽化が激しく、浸水被害では、特に平成26年7月のゲリラ豪雨時に、砺波市東保から中田地区を含め射水市串田地区に及ぶ広範囲にわたる農地や宅地等への浸水被害が発生した。 その不安解消及び防災減災のため、庄川右岸における広域的な幹線排水路整備を推進してもらいたい。[再掲]	庄川右岸地域の農地防災事業として、令和2年2月より県、本市も含めた関連市及び関連土地改良区による「庄川右岸地区の用排水対策に関する検討会」において、基幹的用水排水路の老朽化対策、並びに自然的・社会的変化等による水路の溢水被害防止対策を総合的に検討し、早期事業化に向け、取り組んでいるところである。（再掲）	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
94	30～40年前から話しているが、氷見の島尾で湾岸道路が止まっている。太田地区の防災について関心が高く、高波・津波の防災としての湾岸道路を作ってほしい。	湾岸道路整備については、道路の新規整備から維持更新へ重心をシフトすることとしており、新規整備については、路線沿線の土地利用状況や通学路の指定状況、交通事故の発生状況等の視点により、整備効果を総合的に判断して必要な路線の整備を進めたい。 太田地区を含む雨晴海岸については、県により令和2年度から高波による砂浜の浸食防止対策として副離岸堤の整備が行われているところである。津波対策としては、津波ハザードマップ記載の避難対象地域にお住まいの方は、津波が想定される際には速やかな避難をお願いしたい。	ご意見は参考としたい。
95	川原校下の自主防災組織を、遅ればせながら昨年立ち上げたところである。備品などまだまだ追いついていない現状である。また、現在の避難場所は川原小学校になっている。ただ、川原地域には千保川が流れており、洪水などの際には内免橋が渡れなくなるかもしれない。ではどうするかということで斎場跡地に避難場所を建設できないかと、ある議員に話しているが実現しないところである。	跡地利用については、地域の皆さんの思いもあることから、今後、関係の方々のご意見をお聴きしながら、市全体の施策を踏まえ、検討を進めてまいりたい。	ご意見は参考としたい。
96	川原校下の安全パトロール隊について、3校の統合後にはどうなっていくのか心配している。学校の統廃合後にはどうなるのか考えてほしい。	子どもを安全・安心に見守れる体制が整えられるよう、学校、地域防犯組合や地域防犯パトロール隊等の自主防犯組織、警察等と連携を図りながら検討してまいりたい。	ご意見は参考としたい。
97	災害時の警報について、スマホ等が普及して情報を得やすくなったが、いざというときに地域全体に行き渡るよう、アナウンス施設を建ててはどうか。	防災情報を発信するアナウンス施設としては、防災行政無線がある。市では、いつ発生するか予測できない地震・津波や豪雨により突然発生する土砂災害から避難するための情報発信のため、海岸域及び山間地域において防災行政無線を整備している。 平野部において発生する洪水は、短時間で広範囲に被害が生じるため、住民による事前の備えと行政による迅速な避難情報の伝達が重要である。このため、いざ避難が必要になった場合のプッシュ型のエリアメール、Yahoo防災アプリのほか、テレビの文字放送などの情報伝達手段により避難情報を発信し、迅速な住民避難を支援する体制を整えている。 住民と自治会、行政の連携による避難体制を堅固にするため、引き続き、市民に対し、日頃の備えや、災害時の情報収集、ハザードマップとマイ・タイムラインを活用した早めの避難行動の周知・普及を図ってまいりたい。	ご意見は参考としたい。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
	<p>今の水災害は局地的に大きな被害が発生するものであるため、突然の災害による被害が心配である。そのため、砂防ダム対策やため池の整備に力を入れてほしいと思っている。〔再掲〕</p>	<p>現在、高岡市においては、防災重点ため池について、調査結果に基づき整備をおこなっているところである。今後も、ため池管理者と協議をおこない、対応してまいりたい。 また、志貴野校区の砂防ダムの整備は、県により二上地区と五十里道重地区で実施されているところであり、早期完成に向け引き続き県に要望していきたい。 国道160号の雨水排水については、国において地区の排水路への影響を考慮し整備されていると考えているが、近年、雨の降り方が強くなっていることもあり、国へは地元からの意見としてお伝えしたい。（再掲）</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策2-②農山村の振興の施策の展開&lt;農地防災の推進&gt;に記載済。</p>
98	<p>牧野地区は射水市との狭間にあり、近年牧野大橋の開通、更には中曽根地内の商業ゾーンや富山新港周辺に立地する企業団地などにより交通量が増加している。また、当地区における人口の増加傾向などに鑑み主要道路の整備を、射水市と連携を取りつつ、県に強く働きかけていただきたい。</p>	<p>市道中曽根姫野1号線は、通学路に指定されているが歩道がない区間があることは認識しているため、今後、詳細な調査を実施して対応を判断していきたい。 また、本路線については、国道8号や（都）北島牧野作道線、国道415号などの幹線道路を連絡する補助的な幹線道路の位置づけを有していることから、全体的な改修については、北島牧野作道線の全線開通後の交通状況を見ながら、判断していきたい。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
99	<p>牧野地区は庄川や海に近く、海拔が1～2mの低地帯であり、河川の氾濫や津波による浸水被害に向けた防災対策が必要である。そのためには、防災施設の一層の整備や緊急時に地区住民が安心して避難できる避難場所の確保が急務と考えている。</p>	<p>津波や洪水に対しては、防災施設の整備による対策は限界がある。このため、発災時は迅速な避難行動により身の安全を確保することが重要である。そのための知識の習得や避難行動について、引き続き、防災訓練や出前講座等により周知を図ってまいりたい。 牧野地区において想定される最大級の洪水被害が発生すると、ほぼ地区の全域が家の2階部分まで浸水すると見込んでいる。避難場所である牧野小学校と牧野中学校だけでは収容人数に限りがあるので、災害時応援協定に基づく射水市の避難場所への避難も含め、新たな避難場所の確保に取り組んでまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
100	<p>蛇口をひねれば水が出る、水を流せば下水道が処理してくれる「あたりまえ」。上下水道の整備が普及しているか否かは文化的な生活のパロメータである。市の上下水道整備が90%を超えて普及している中で、山王地区においては矢部地区の下水道、小伊勢領、西川原島地区の上下水道の整備が進んでいない。このことが、「次の世代」の方々がこの地域で生活しようと思う場合、大きな壁になっている。</p>	<p>福岡町南部地域の下水道整備については、上叢、叢島、下老子、江尻、一步二歩地区の公共下水道整備をすでに完了し、現在は矢部地区の整備を進めている。 今後も引き続き整備を進めるなかで、早期の環境整備を図るため、地域に最も適した効率的な汚水処理整備方法について検討していきたい。（一部の地域においては合併処理浄化槽整備となる可能性もある） 上水道整備については、これまで下水道の整備と歩調を合わせ進めてきており、現在は矢部地区の整備を行っているところである。今後も引き続き計画的に整備を進めていきたい。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
	<p>戸出地区では、児童と高齢者の安心安全を最優先としている。登校時の児童の見守りや、冬季には地域で除雪などに取り組んでいる。地域の特性上、用水が網の目のように張り巡らされているため、高齢者の用水転落事故が多発している。また、子供たちが用水周辺で遊んでいるなど、大変危険な状況であると思っている。防護柵の整備は進めてもらっているが、今後も、転落の恐れのある用水の洗い出しを進めていただきたい。〔再掲〕</p>	<p>農業用水路等への転落事故防止を未然に防止するため、（富山県農業用水路安全対策ガイドラインに基づき、）県、土地改良区、用水管理者及び地域住民と連携し、（ワークショップを通じた安全点検や危険箇所マップの作成をおこない、）地域の実情に応じた効果的な対策強化を図ってまいりたい。 また、防護柵の設置については、現地の状況を確認し、緊急度、優先度を判断し、検討してまいりたい。（再掲）</p>	<p>計画に反映する。 ⇒施策2-②農山村の振興の施策の展開&lt;農村環境の保全&gt;1点目に記載。</p>
101	<p>人口減少の中で、社会資本整備の新規については、より必要・効果のあるものにしぼり、都市・施設（道路、上下水道等）の維持（日常生活の維持）に主眼を。</p>	<p>今後の人口減少を見据え、道路や上下水道などのインフラに関しては、都市の持続的発展を図る観点から、新規整備から維持更新へと重点を移し、計画的な維持更新を進めることとしたい。このため、新規整備については、真に必要な整備を進めたい。 &lt;上水道の整備&gt; 上水道整備については、老朽管の布設替え等の更新に重点を置き整備を進めている。水道未普及地域における新規整備については、地域の給水要望や、優先度などを十分に考慮し、整備を進めていきたい。 &lt;下水道の整備&gt; 下水道を含めた汚水処理整備については、合併処理浄化槽を含めた、地域に最も適した効率的で効果的な整備を進めていきたい。下水道施設及び管渠の改築・更新については、ストックマネジメント計画に基づき、計画的に進めていきたい。</p>	<p>既に計画に反映している。 施策の展開&lt;市道整備の推進&gt;に記載済。 &lt;上水道の整備&gt; 施策の展開の&lt;上水道の整備&gt;に記載済。 &lt;下水道の整備&gt; 施策の展開の&lt;下水道の整備&gt;に記載済。</p>
	<p>コロナの時代にあって外での活動を活発にするため、若者を元気にするためにハイキング場やキャンプ場、西山丘陵から二上山に抜けるような散歩コースなどを開発できないか。また、新たに作るばかりでなく、二上まなび交流館を磨き上げたりすることで、外で気持ちよく活動できるようなことができるとよいと思っている。〔再掲〕</p>	<p>本市では、身体活動や運動に関する知識を普及啓発するとともに、誰もが気軽に参加できる健康ウォーキング教室や歩こう会等を開催し、健康寿命の延伸を目指している。また、二上山の魅力伝えるため、「二上山となかよくなるガイドブック274」を作成している。ドライブコース、ハイキングコース（3コース）の他、各名所の説明や二上山周辺の案内も加えている。市内の小中学校や県内外の訪問客からの照会の多い冊子である。高岡市HPからもダウンロードできるようにしている。今後も活用していきたいと考えている。一方、二上まなび交流館は令和2年度で廃止とすることとしている。（再掲）</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策13-①生涯を通じた健康づくりの推進の施策の展開&lt;生涯を通じた健康づくりの推進&gt;1点目に記載済。</p>
<p>16 その人らしさが尊重され、お互いに助けられながら幸せに暮らしている</p>			



No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
102	資料に「何が必要なのか」と書いてあるが、最近の世の中は利己的な考え方が強いので、他人を大切にする、利他的な考え方が必要だと思う。人の力とは自助で、地域の力とは共助とか互助という類に入ると思う。人の力そのものは意欲等だと思うが、地域の力はどうすれば発揮できる社会になるのか考えたときに、やはり他人をもっと大切にするという思想を入れたいと思わないと思わない。	住民が地域活動に参加する機運の醸成に向けて、住民の方々に地域のあり方を話し合う機会を設けていただき、この話合いに市職員も参画し、効果的な地域運営やその組織のあり方も含めて、議論していきたいと考えている。	ご意見は参考としたい。
103	自治会は基本的に任意団体のため強制加入はできないと思うし、少数だが自治会に入るのを拒否する人もいる。これらは地域コミュニティとして見たときに弱体化となると思われる。地域の活性化やコミュニティの活性化している事例などを市から紹介してもらえないだろうか。人材の掘り起こしや地域住民をどう巻き込んでいるかなどをはじめ良い事例を教えてください。今後の参考にしていきたいと考えている。	全国には先進的な取組みによる地域コミュニティの活性化事例が多くある。そこで本市の各地域において、これらを参考に活動に取り組んでいただくことによって、地域の活性化につなげるため、周知に努めて参りたい。これまでも高岡市連合自治会と連携して先進地の視察を行ってきたところであるが、各地域に説明に赴き事例を紹介する場を設けていくとともに、ホームページの活用も視野に入れてまいりたい。 (R3の出前講座に地域への事例紹介を組み込む予定)	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
104	地域には様々な団体がある。自治会、社会福祉協議会、防災組織、女性の会など目的に応じた組織がある。これらはゆるい連合体である意味縦割りとなっている。これをもっと強力な密な関係にするときには、縦割りではなくて輪っかになったような一体的な組織も考えられるのではないだろうか。地域コミュニティの組織体について、このような形があるのか、こういうメリットデメリットがあると教えていただけるとありがたい。	地域には、各部署から様々な目的別組織の委員選出等を依頼しているが、人口減少・高齢化の進展により担い手不足で苦慮されていることは認識している。その担い手不足を解消する手段の一つとして、人口減少が深刻な自治体では、小規模多機能自治型などの団体を統合・集約した新しい組織により地域運営をする動きもある。この新しい組織による地域運営によって、地域住民が主体的に地域課題に取り組むなど、地域のコミュニティ活動が活性化する効果が期待できる。その一方、組織の設立によって人口減少等にもなう諸問題が解決するわけではないことから、持続的な地域活動を行う工夫が必要であることが課題と考えている。 (R3の出前講座に地域への事例紹介を組み込む予定)	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
105	高齢化・定年延長などで、ボランティア組織に関与できる対象者の絶対数が減少してきており、人的負担の大きさに大変苦慮している。そのため、担い手が少ない地域でも組織を維持又は、組織に関与できるよう、組織の統廃合や、組織の設立に係る地域等の拡大が必要であると考えている。〔再掲〕	地域には、各部署から様々な目的別組織の委員選出等を依頼しているところであるが、高齢化や定年延長などの社会構造の変化により、担い手不足で苦慮されていることは認識している。その担い手不足を解消する手段の一つとして、人口減少が深刻な自治体では、小規模多機能自治型などの団体を統合・集約した新しい組織により地域運営をする動きがある。本市でも、各地域に適した組織について、地域の皆様と一緒に検討して参りたい。また、地域活動の内容によっては、隣接する地区と合同で行うことで互いに負担を軽減することが見込まれる。例えば、同じ千鳥丘小学校区である立野地区と協力することも一案と考える。(再掲)	既に計画に記載している。 ⇒「ひとの力」の視点の2点目に記載済。
106	公民館の地域の事務局強化について、地域の意見・実情を把握したうえで進めていただきたい。地元の課題は地元でということだが、あまりに早急に事柄を進めるのではなく、自治会組織の体制を整えてから進めていくべきと考える。	ご意見のとおり、担い手の確保等の課題については速やかに解決する必要があると捉えている。そこで、その解決に向けた第一歩として、立野・東五位・小勢・石堤を含む市内13の全ての地区連絡センターの事務従事者について、地域で雇用してもらうことを考えている。これにより、地域の拠点となる施設を地域活動の実務を行う事務局として機能させるとともに、地域人材を育成していくことも視野に入れたものであり、地域活動を安定して運営していくことが可能となる。 (R3から意欲のある地区において、住民同士の話し合いを行い、各地域の実情把握に努め、個別の課題解決を図ってまいりたい)	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
107	定年の延長などにより、自治会の仕事をお願いしても仕事をしないでできないという場合が多い。働き方改革により、有給休暇取得が推進されているなか、取得した休暇を利用して自治会の行事に参加するように促せないだろうか。	地域活動を維持・継続していくうえで、担い手不足や参加者の固定化が課題となっていることは認識している。若い世代など、これまで地域活動への参加が少ない住民に対して、地域社会への参画が増えるよう、自治会の方々と協力しながら、行政として効果的な支援を検討して参りたい。	ご意見は参考としたい。
107	「ひとの力、地域の力」とは小規模多機能自治のことでと推察するが、小規模多機能自治について具体的な説明をお願いしたい。	住民の方々に地域のあり方を話し合う機会を設けていただき、この話合いに市職員も参画し、小規模多機能自治などの先進事例を紹介しながら、各地域の特性に配慮した効果的な地域運営などを含めて議論していきたいと考えている。 (R3の出前講座に地域への事例紹介を組み込む予定)	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
108	二上地区にある産学官の組織である「まんしょう会」について、災害時の協定締結や福祉活動支援体制、各機関の公開行事開催計画など進め方について指導願いたい。	二上地区は、富山大学芸術文化学部をはじめ、富山県産業技術研究開発センター、各種企業など、産学官の施設が集積している地区であり、また二上山（守山城址、二上射水神社）など、歴史・文化資産にも恵まれている。こうした地区の持つ特徴を活かして地域づくりを進め、組織のあり方を考えることは非常に重要であると考えている。地域における組織については、民間活力を活かした地域運営組織や小規模多機能自治など、地域の特徴に応じた多様なあり方があるところ。こうした他地域の事例をご紹介しながら、二上地区の産・学・官・民で組織される「まんしょう会」の持つネットワークも活用し、これからの地域づくり、組織づくりについて本市も一緒に考えてまいりたい。	ご意見は参考としたい。 ⇒市職員の自発的参画を促していきたい
109	誰もが生き生き暮らす地域、地域住民の暮らし相談、見守りの情報などのデータの保存・活用が必要である。そのために目的別の組織の活動対象は、特に高齢者が中心である。組織体制を一体化し、計画的、安定的、持続可能な地域づくりを目指すため、端末機約20台の助成をお願いしたい。	持続可能な地域組織のあり方について、小規模多機能自治など、地域の特徴に応じた多様な形がある。こうした他地域の事例をご紹介しながら、これからの地域づくり、組織づくりについて本市も一緒に考えていきたい。例えば、一本化した新たな組織において、これまでの市からの助成や補助についても一本化し、その中で端末を整備されるなど、地域の特徴や実情に合わせた活用を行っていただければと考えている。また、地域の交流や連絡に結びつく有用なアプリの調査・研究を行い、この利用によって自治会運営の負担の軽減につながるものがあれば、地域に紹介したいと考えており、そうしたアプリの活用というのも考えられるのではないかと思う。 (高岡市連合自治会が率先して、スマホアプリの導入を検討しているところであり、自治会活動の効率化につながることを期待している。市としても支援できることについて検討してまいりたい)	ご意見は参考としたい。
110	マンション管理組合が自治会に入ることを拒否したため、今後の自治会活動と地元住人とのつながりを考えていかないといけない。	ご意見のあった「住民の参画を促す取組み」については、会合やイベントの短時間化や回数を減らすことなどにより負担を減らすことで、気軽に参加できるようにすることが重要と考えている。他の自治体の先進事例等の調査・研究を行い、自治会の方々と協力しながら、行政として効果的な支援を検討して参りたい。また、活動の再構築については、地域の皆さまが主役として活躍できるよう、課題を発見し、解決するための話し合いの場を創出し、市の関係部局が参画・助言する体制を構築していきたい。課題が明確になると、解決のための事業化を図るなど、活動の活性化につながっていくことが期待される。必要な事業に対して適切な組織を構築し、持続的な運営を行っていくことが必要と考えている。	ご意見は参考としたい。
	みんな仕事をしており、ボランティアをしてくれる人が本当に少なくなった。ボランティア活動に参加してもらえるような仕組みをつくってほしい。〔再掲〕	ご意見のあった「住民の参画を促す取組み」については、会合やイベントの短時間化や回数を見直すことなどにより負担を減らすことで、気軽に参加できるようにすることが重要と考えている。他の自治体の先進事例等の調査・研究を行い、自治会の方々と協力しながら、行政として効果的な支援を検討して参りたい。また、活動の再構築については、地域の皆さまが主役として活躍できる場の創出のため、課題を発見し、解決するための話し合いの場を創出し、市の関係部局が参画・助言する体制を構築していきたい。課題が明確になると、解決のための事業化を図るなど、活動の活性化につながっていくことが期待される。必要な事業に対して適切な組織を構築し、持続的な運営を行っていくことが必要と考えている。（再掲）	計画に反映する。 ⇒施策12-①地域福祉の推進の施策の展開<ボランティア・NPO活動の充実>及び「ひとの力」の視点に記載
111	自治会の役員の担い手が少なくなっている。定年延長などで、自治会の業務に従事できない人が増えている。また、積極的に自治会活動に参加したがない人もいる。人材育成の方策などについてアドバイスをいただきたい。	自治会の担い手不足の原因は自治会ごとに様々である。野村地区のように人口が多い地域では、決して人手が不足しているわけではないと思われる。担い手や参加者の減少は、自治会の負担が大きいためであると考えられることから、会合やイベントの短時間化を図るなど、気軽にかつできる範囲で協力する状況作りが重要であると思われる。地域活動の参加を重ねることにより、仲間意識が醸成され、人材育成につながるとともに担い手の増加が期待できる。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
112	現在自治会長は、市や各種団体から頻繁に来る回覧書類や配布物の分類作業、ゴミステーションの管理、イベントへの動員等地域の手足となっている。若い世代が町中から徐々に姿を消し、残った自治会員は高齢化し、体力が衰え、作業が負担になっているため、多くの自治会は短期（2年）間の輪番制を採用している。その結果、町全体に関わり、解決に時間を要する課題が発生した時、自治会がスムーズに機能しなくなる可能性がある。例え、目的別の組織が出来ても（現に存在するが）実行の段階では自治会に頼らざるを得ない。近年の少子高齢化、人口減少により、地域組織のあり方の問題が露呈されつつあるが、解決は容易ではない。地域によって事情が異なるので対応も異なる。先ず、市の担当部署（共創まちづくり課）と市自治会連合会の話し合いの場で検討し改革案を提示すべきである。	地域によって世帯数や年齢構成など事情が大きく異なるため、行政主導による一律的な対応が困難となっていることから、今後は地域住民が主体的に地域課題に取り組むことが大切になると考えている。そこで、まずは、住民の方々に地域のあり方を話し合う機会を設けていただき、この話し合いに市職員も参画し、効果的な地域運営やその組織のあり方も含めて、議論していきたいと考えている。	ご意見は参考としたい。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
	<p>今後、入浴施設の機能の停止が予定されており、このことに対し「こぶし荘利活用促進委員会」が設立され、スムーズに運営がされるように議論されているが、地元赤丸自治会に対しても十分わかりやすく丁寧な説明をいただくよう、地域活力の維持・活性化に向けて格別のご配慮をお願いしたい。</p> <p>また、人口減少が進む中、住民相互の交流活動が図れる地域コミュニティ活動の活性化は有効であると考え、活動の推進にあたっての支援をお願いしたい。〔再掲〕</p>	<p>こぶし荘の件については、地元自治会の役員を含め、福岡地域の様々な立場の方に施設の状況や所有者である市社会福祉協議会の意向、福祉目的の入浴施設に対する市の考え方などを説明しながら取り組んできた。</p> <p>令和2年2月には、福岡町地域自治会連合会の役員（赤丸会長含む。）をはじめ、社会福祉協議会、市の担当課で構成する利活用促進委員会が立ち上げられ、その後4回にわたって委員会を開催し、令和3年4月以降の施設運営の大枠を固めてきた。</p> <p>今後もこぶし荘を運営していくに当たっては、地元赤丸を含む福岡地域の皆様のご支援とご協力が欠かせないと考えている。来年度以降も利活用促進委員会この枠組みを尊重しながら、そこで議論される様々な取り組みに対し、できる限りの支援をしてまいりたい。</p> <p>また、地域の活性化のために、本市の関係部局が各地域の課題解決のための話合いに参画して助言するなど、地域に寄り添った支援を行っていききたい。（再掲）</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒＜共創の基盤の強化＞＜地域における共創の手法の活用＞＜住民が主体となる地域づくり＞にそれぞれ記載済。</p>
113	<p>自治会連合会で長岡市に視察に行った。長岡の駅前に自治会等役員の相談窓口があった。各自治会等役員の相談事をいったん受ける窓口があった。支所化の問題もあったが、どこに相談したらいいかわからないと駄目である。市の窓口にも聞いても具体的な話はできないので、設置していただきたい。</p>	<p>高岡市では、担当課が明確な案件については、直接相談してもらいたい。相談先がわからない案件については、一旦、共創まちづくり課が窓口となり、担当課に取り次ぐこととしている。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
114	<p>人口減少、少子高齢化にあつて南砺市では小規模多機能自治を進めているが、高岡市はそれを取り入れていくのか、今回の計画に入れていくのか、どうしていくのか。</p>	<p>住民の方々に地域のあり方を話し合う機会を設けていただき、この話合いに市職員も参画し、小規模多機能自治などの先進事例を紹介しながら、各地域の特性に配慮した効果的な地域運営などを含めて議論していきたいと考えている。（再掲） (R3の出前講座に地域への事例紹介を組み込む予定)</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
115	<p>博労校下は連合自治会そのものの高齢化が進んでおり、1年に何度も自治会長が代わる。3、4年もすればがらりと顔ぶれが変わる。そのため、自治会組織の運営方法をどうするか、統一化された方向性が定まらない。</p> <p>一方で、博労地域で防災訓練を行っているが、防災訓練は地域活動の基礎になるのではないかと考えている。自治会活動を防災組織を拡大した形にするのもひとつではないかと思っている。</p>	<p>自治会活動は各地区において住民が必要とする活動を実践することが必要と考えている。博労地域において防災活動を核とした地域活動が重要とされるのであれば、地域に適した持続的な活動形態を共に考えてまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
116	<p>木津地区は人口も世帯も増えている。一方、地域で殺人事件があったが、人とふれあうことのない世帯であった。地域とのふれあいがあれば違っていたかもしれない、自治会活動にも参加されないような、人と触れ合うのが苦手だという人に対してどのように対応していけばよいか。 〔再掲〕</p>	<p>地域で開催される様々な事業に参加を促していくことは、高齢者や一人暮らしの方が元気に生活いただく上で、大変重要なことと考えている。</p> <p>一方で、交流の場への参加を望まない方については、健康状態や認知症状などの理由があることも考えられる。気になる状況等があった場合には、高齢介護課又は地域包括支援センターへご相談いただきたい。</p> <p>また、参加に消極的な方については、どのような交流であれば参加したいのか、例えばアンケートなどを実施してニーズを把握することも交流の第一歩と考える。（再掲）</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
116	<p>地域力を高めていくことが大事と考えており、小規模多機能の体制をどう作っていくか、一番のプレーキとなるのは行政の縦割り組織問題である。たとえば空き家空き地問題と環境衛生悪化の問題がある。自治会にとっては同一次元の問題であるのに、それぞれから調査を依頼されたら2回行わないといけないし、どう反映されるのか答えが返ってこない。重複をなくせば無駄がなくなり効果もあがるはずであり、住民サービスには良いものと考えられる。そうした体制づくりをお願いしたい。</p>	<p>市政運営において、地域には各部局から様々な協力を依頼しているところであるが、近年は、住民ニーズの複雑・多様化にともなう依頼事項の増加により、地域の負担が増加していることは認識している。</p> <p>本課題については本市役所だけでなく、県や警察、他の公官庁なども関連することから、複雑な問題である。しかしながら、指摘された課題は喫緊の大問題となっていることから、まずは市役所内部において部局横断的に統合・集約を図り、地域の皆さまが実感できる形で具現化していきたい。</p>	<p>個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。</p>
117	<p>福田地区には町づくり福田の会というものがある。獅子舞競演会を行うことをはじめ、次の世代を育てるといった目的であったのに、次を担う若者たちという言い方が重いのだろうか、当初と焦点がずれてうまく機能しなくなっている。</p>	<p>うまく機能していない点が何かわからないところがあるが、現役世代だけでなく、高齢者の方々であっても、全ての活動に広くかかわることは難しいこともあると思われる。</p> <p>世代ごとに役割を分担して、できる範囲で活動に参画していただくなど、地域活動に長く携わっていただき、リーダー的存在を育成していく方法も考えられる。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
118	地域おこし協力隊の活躍の場を設けてほしい。	地域おこし協力隊については、令和2年度に高岡市として初めて導入したところであり、公共交通をテーマに沿って地域の活性化をミッションとして活躍いただいている。 地域おこし協力隊は地域ブランドや地盤商品の開発・販売・PR等の地域おこし支援や、農林水産業への従事、住民支援などの「地域協力活動」を行いながら、その地域への定住・定着を図る取組であり、隊員が活躍するためには、適切なミッションを提示するとともに、受入地域や関係団体の理解・協力が必要となる。 本市としては、地域おこし協力隊の制度を活用し、都市部などの在住者ならではの視点や経験による、行政では手の届かないきめ細やかで柔軟な地域活性化策を推進したいと考えており、継続して地域おこし協力隊を導入したいと考えている。	計画に反映する。 ⇒施策の展開＜地域における共創の手法の活用＞3点目に記載。
<b>17 市役所が市民に信頼され、責任を持って取り組んでいる</b>			
119	特別会計の10事業について、独立採算に近い形で行っていると書かれている。上水道事業や工業用水事業、下水道事業については民間に近い貸借対照表などで出ている。下水道事業の資本的収支などを見ていると問題を感じる。上水道は純利益が12%ほどあり、それを見ると安心する。それと同じ視点で見ると、市民病院は心配、これは一般会計で補填されるのではないかと思う。その他の特別会計についても損益計算書などを出してもらわないといけないのではないか。	企業会計を含む特別会計については、決算書において、その収支状況を公表しているところ。また、個別ではないものの一般会計と特別会計を含む市の財政状況を分かりやすく説明する取組として、「総務省方式改訂モデル」に基づいた財務4表を作成し、ホームページで広報している。	ご意見は参考としたい。
120	地域住民のニーズは様々であり、地域で考えていきたいが、考えて実行することが住民の心理にはなじんでいない。そのため行政で人材育成をしてほしい。自分たちで学ぶことは難しいので知識講座や実践講座を計画に取り入れてほしい。	生涯学習センターやふくおか総合文化センター、市立公民館などの各施設で、様々な世代ニーズに応じた特色ある講座を開講しており、講座内容等の充実に努めてまいりたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
121	福祉行政について、担当によって様々な課に相談する必要があり、煩雑である。部局間での連携を行い、組織を簡素化することにより、利用者にとってもっと便利な役所づくりを行ってほしい。	課窓口において、個人や世帯の困りごとを『丸ごと』受け止められる体制を整えるとともに、庁内の関係課及び国・県の行政機関や団体などの多機関がネットワークを形成することで、包括的で重層的な相談・支援体制の強化に努めてまいりたい。	ご意見は参考としたい。
122	牧野地区は若い世代や子供が多く、これから若い世代を中心に組織替えをして生き生きとした活動ができるようにしたいと考えている。新湊から入ってきた人の集落があり、その中心が商業ゾーン、近くに住宅地、周りに農地と理想的な地域になっており、さらに人口増加の傾向が見受けられる。魅力ある地域に若い世代にこれからも住んでほしいと考えており、若い人を元気づけるのは住民相互の絆である。交流を通して絆を高めていくためには施設が必要である。牧野地区には必要な施設だけは確保していただき、住民で頑張る維持していきたい。	各地域にはそれぞれの特徴があり、地域の方々がそれぞれ今後のまちづくりについて考えていただくことは、市全体の発展のために重要なことと考える。 地域の方々が使われる公共施設についても、自らのこととして議論していくことが大事であり、牧野地区のように若い世代が多いという特徴を踏まえて、現在ある資源をいかに有効に活用し、どのように再編していくか、また、地域の方々がより幅広く使うためにどうすればよいかなど、関係の方々のご意見を聴きながら検討を進めたい。 【参考】 若い世代が多い牧野地区において、地域に子どもや子育て世代が集い、交流できる場があることは大切なことであり、公立の牧野かぐら保育園と、私立の牧野みどり保育園では、月に1～2回程度（現在は新型コロナ対策のため休止中）、子育てサロンを開催し、子どもの遊び場や子育て相談、子育て世代の交流の場となっている。 加えて、地域の子育て支援団体が市の支援を受けて、週2日程度、親子で参加できる親子広場「いちにつきさん」を開催し、絵本の読み聞かせやおもちゃ遊びなどを通じて、参加者同士の交流の場づくりを行っている。 このほか、屋外の遊び場として、地区内に遊具を備えた児童公園があり、牧野地区から射水市にかけて県民公園「新港の森」もあることから、有効に利用いただきたい。 既存公園の機能については、今後の人口動向、少子高齢化の進展等、社会情勢の変化に伴い公園・緑地として求められる機能は変化することから、住民の方のご意見を伺いながらニーズに応じた機能の充実に努めてまいりたい。	個別計画や具体的な事業を検討する際の参考としたい。
	コロナで一番感じた事は、いろいろな情報がテレビからは知りえたが、行政からは情報をほとんどもらえなかった。情報が来ず、どうしたらよいかわからなかったので、とりあえず集会などは中止にしてきた。行政には、正しい情報（予防法など）を伝えてほしい。〔再掲〕	新型コロナウイルス感染症に関する情報については、広報紙やホームページで、市長メッセージをはじめ、公共施設・イベントの開館・実施状況、相談・受診体制の案内、各種支援策の案内等を提供している。また、コロナ対策本部の開催にあわせてプレス発表をするなど、新聞や民放テレビなどでの情報発信にも努めてきたところ。民放テレビだけでなく、メディアミックスな情報発信が効果的であると考えている。今後とも、時機を逸することがないように、市民にタイムリーな情報をお届けしていく。	既に計画に記載している。 ⇒施策の展開＜わかりやすい行政情報の提供・個人情報保護の徹底＞の1点目に記載済。

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
123	<p>令和3年4月より、地域振興課・産業建設課・市民生活課・福岡まちづくり推進室が廃止され、福岡支所に変更されると聞いている。新たに発足する福岡支所については、</p> <p>①市民の各種手続き・申請・申告等の地域住民へのサービスが低下する。</p> <p>②福岡支所に対応できない場合、本庁舎に出向かなければならなくなる。また、体に障がいを持つ方、自動車の運転ができない方は、公共交通機関（バス・鉄道等）を利用する際、複数回の乗り換えが必要なり、大変不便になる。ことを懸念している。</p> <p>このことを解決するには、従来の各課を存続することが最良と考えるが、各課が存続できない場合、市としてどのように対応するのか。市民サービス及び地域住民とのコミュニケーションが低下しないよう熟慮していただきたい。</p>	<p>福岡地域における行政組織については、令和3年4月に福岡総合行政センターを廃止し、本庁課として2課1室を新たに設置するものである。</p> <p>地域住民の生活に密接する行政サービスについては、市民生活部の福岡支所を設置し、他の3支所と同様の水準を維持するほか、センター廃止後も引き続き福岡地域や中山間地域の交流・振興を担うため、産業振興部として地域振興交流課を設置する予定である。</p> <p>加えて、都市創造部として福岡駅前土地区画整理事業を担任する室も設置する予定である。</p> <p>福岡支所における手続きについては、他の3支所と同水準となることで、一部手続きについて本庁へ集約されるため、場合によっては本庁へ出向いていただく必要もあるが、新たに設置される1課1室と合わせて、福岡地域全体としての行政サービス、地域住民とのコミュニケーションが低下しないよう努めてまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
	<p>自治会連合会で長岡市に視察に行った。長岡の駅前に自治会等役員の相談窓口があった。各自治会等役員の相談事をいったん受ける窓口があった。支所化の問題もあったが、どこに相談したらいいかわからないと駄目である。市の窓口聞いても具体的な話はできないので、設置していただきたい。[再掲]</p>	<p>高岡市では、担当課が明確な案件については、直接相談してもらいたい。相談先がわからない案件については、一旦、共創まちづくり課が窓口となり、担当課に取り次ぐこととしている。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
	<p>他市と連携し互いの祭礼や行事を宣伝し、互いに参加し合う体制を発展させて欲しい。他地区自治会の小さな行事を紹介することで、これから企画・改善しようとする自治会の参考となる。[再掲]</p>	<p>他自治体との広報紙での情報連携については、最近のコロナ禍での祭礼・行事自体の中止により連携が少ないが、これまで高岡・氷見・七尾広域観光事業促進連絡協議会や高岡地区広域圏の枠組みを活用して、お互いの広報紙でPRや催事を案内するなどの情報連携を続けている。加えて、新高岡駅利用促進に向けた「さあ、新高岡駅から。」コーナーにおいても、北陸新幹線沿線都市と同様の取り組みを続けているところ。</p> <p>また、市内自治会の行事に関する記事については、これまで主に「街で見つけた」や以前連載していた「まちかどワイド」コーナーにおいて適宜掲載に努めてきた。こうした各自治会での活動を紹介する連載記事も念頭に、今後も次期総合計画のキーワードでもある「ひとのちから」の視点を大切に広報紙づくりに努めていく。(再掲)</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策の展開&lt;わかりやすい行政情報の提供・個人情報保護の徹底&gt;の1点目に記載済。</p>
124	<p>近年、様々な補助金が減額されている。地域住民の高齢化により、自治会の負担が増加している一方、補助金が削減されている。今後補助金がかつての水準に戻る見込みはあるのか。</p>	<p>補助金については、市民と行政の役割分担を明確にするとともに、時代により変化する市民ニーズに対応した補助制度を提供できる環境を整えるため、令和2年3月に中長期的・統一的な観点に基づく補助金の基本的な指針として「補助金の基本的な考え方（補助金ガイドライン）」を策定した。</p> <p>今後は、この「補助金の基本的な考え方（補助金ガイドライン）」と現在、策定に向け取り組んでいる評価基準に基づき、削減した補助金を含めた、全ての補助金について、透明性の高い、適正な評価を行いつつ、本市の行政目的の達成のために、時宜に応じた、よりよい補助制度を確立していくこととしている。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
【その他】			

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
125	空き家対策及び人口対策にもなるので、移住政策を積極的に進めてほしい。	<p>本市では、人口減少対策として第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」(R2-R6)において、①若者の移住・定住を促進する②若者の働く・結婚・子育ての希望をかなえる③人口減少に対応可能な地域をつくる、を基本的な考え方とし、まち・ひと・しごとの創生に取り組んでいる。本市の社会動態は、特に大学への進学を契機に多くの若者が石川県、東京都などの県外に転出しており、地域に愛着と誇りを持つ子どもの育成や魅力的な仕事の創出により、大学卒業者等のU I J ターンの強化に努めている。また、若者のニーズに合った住まいの確保、市内全小中学校での小中一貫教育の推進などの教育環境の充実などにより、若者の移住・定住の促進を図っている。</p> <p>さらには、2拠点居住など地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」の創出・拡大についても重点を置いている。地域への関心や地域とのかかわりを深めていただくなかで、地域経済の活性化や将来的な「定住人口」の増加にもつなげてまいりたい。</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策5-①観光資源の発掘と保存・活用の施策の展開&lt;文化資産等を活かした観光振興&gt;7点目に記載済。 ⇒施策5-③イメージアップ・誘致活動の強化のひとの力の視点に、将来的な移住へつなげることを記載済。 施策6-②中心市街地活性化の推進の施策の展開&lt;まちなか居住の推進&gt;3点目に記載済。 ⇒施策6-④住宅・宅地の整備の、施策の展開及びひとの力の視点に、定住人口の増加に向けた取り組みについて記載済。 施策7-④広域連携の推進の施策の展開&lt;連携中枢都市圏の取り組みの推進&gt;4点目に記載済。 ⇒施策17-③簡素で効率的な行財政の推進の施策の展開及びひとの力の視点に、&lt;人口減少・少子高齢化に対応した戦略的な都市経営&gt;を記載済。</p>
126	総合計画の期間について5年間というのはどういうことか。市長の任期も市議の任期も4年であるため、任期内で完結するような3年くらいのスパンで行うべきではないか。また、計画を行ってきただったか、うまくいかなかったことはないか、うまくいったならなぜうまくいったのかなども必要ではないか。	<p>本市のまちづくりの道筋を示す総合計画の計画期間は、まちの将来像やめざすまちの姿を実現するための長期的な市政運営の基本方針を示す基本構想を10年、その基本構想の施策に基づき、現況と課題に基づき具体的な施策の展開を示した中期的な計画である基本計画を5年としている。また総合計画は、各界各層からなる審議会での議論やパブリックコメントを経て策定している。こうして定めた総合計画を市長や市議の任期に応じて短期間で変えることは、長期的な市政の方針を頻繁に変えてしまうことにもつながることから、市民から信頼される行政運営を行うためにも、一定の計画期間を設定し、行政の継続性を確保することが重要と考える。</p> <p>また、計画期間内の経済社会情勢の変化に対応するため、毎年度計画の進行状況を把握し、総合計画審議会や市広報紙にまちづくり指標を示してご意見をいただき、進捗状況を語りながら改善を図るというPDCAサイクルによる進行管理を行っている。</p>	<p>ご意見は参考としたい。 なお、PDCAサイクルによる進行管理については既に計画に記載している。(総論の第1章)</p>

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
127	<p>若者の移住の傾向について、不便でも自然が豊かで美しい景観の中で暮らし子供を育てたいという若者が増えているようである。</p> <p>ただ、自然が豊かで美しい景観という地域は、太田地区をはじめ、ほとんど市街化調整区域で一部例外を除き基本的には住宅が建てにくい状況にある。</p> <p>法令の規制は理解しているが、地方の著しい人口減少が国としても大きな問題となっている現在、実態に応じて柔軟な対応を可能とすることが必要ではないかと思う。</p>	<p>これまで、地方の若者が、大都市圏、特に首都圏に転出して帰ってこない、いわゆる「東京一極集中」が全国的に続いており、本市においても転出超過の状況にある。一方で、首都圏等に住む若い世代で、一定程度地方への移住の意思をお持ちの方もおられ、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、さらに地方移住への関心が高まっている状況にある。</p> <p>移住希望者が地方に求めるものとしては、自然豊かな土地でゆったりと暮らしたい、農業や漁業に挑戦したいなど、多様なライフスタイルがあるものと考えている。</p> <p>本市でもこうした動きをとらえ、移住・定住施策に力を入れており、呉西圏域で連携した移住イベントへの出展など情報発信に取り組んでいるほか、しごとや住まいなど、いろいろな面で不安や疑問を抱えている移住希望者や移住者の相談にのり、フォローすることを目的とするたかおかウェルカムサポート隊（伏木は塚田高史さん）を結成し、受け入れ体制の充実を図っているところ。</p> <p>太田地区における土地利用については、都市計画マスタープランにおいて、市街化を抑制しながら良好な集落環境を保全する田園集落地区に区分されており、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・優良農地や田園集落の保全を図る</li> <li>・道の駅の周辺も含めて観光振興の拠点としても活用を図ると方針を定めている。</li> </ul> <p>このため、既存集落の維持や観光振興を目的とし、かつ市街化調整区域委おける立地基準（法第34条）を満たす開発行為であれば建築可能と考える。</p> <p>また、古民家等を移住・定住促進等に資するため、開発許可制度に基づく建築物の用途変更をする場合、シェアハウスや二地域居住用の住宅など、現在の県の基準で許可できないものもあるが、相談があった場合には、県と協議して対応してまいりたい。</p>	<p>既に計画に記載している。</p> <p>⇒施策5-①観光資源の発掘と保存・活用の施策の展開&lt;文化資産等を活かした観光振興&gt;7点目に記載済。</p> <p>⇒施策5-③イメージアップ・誘致活動の強化のひとの力の視点に、将来的な移住へつなげることを記載済。</p> <p>施策6-②中心市街地活性化の推進の施策の展開&lt;まちなか居住の推進&gt;3点目に記載済。</p> <p>⇒施策6-④住宅・宅地の整備の、施策の展開及びひとの力の視点に、定住人口の増加に向けた取り組みについて記載済。</p> <p>施策7-④広域連携の推進の施策の展開&lt;連携中枢都市圏の取り組みの推進&gt;4点目に記載済。</p> <p>⇒施策17-③簡素で効率的な行財政の推進の施策の展開及びひとの力の視点に、&lt;人口減少・少子高齢化に対応した戦略的な都市経営&gt;を記載済。</p>

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
128	<p>人口の増加には、定住人口の拡大と、交流人口（観光・ビジネス目的での訪問）の拡大の二つの方策があると思われる。これまでの総合計画では、どちらを重視するかと明言されていなかったが、どちらに軸足を置いているのか教えてほしい。</p>	<p>本市の人口減少対策は、令和2年度を始期とする第2期総合戦略「みらい・たかおか」において、二つの方向性から取り組んでいる。まずは、短・中期的な視野のもと、交流人口の確保をはじめとする地域経済の活性化など人口減少に対応した地域づくりを進めつつ、社会動態の面からの移住・定住対策などを強化する。同時に、人口減少問題の根本的な解決を図るべく、長期的な視野のもと、働きやすく、子育てしやすい環境づくりを進め、若者の結婚・出産・子育ての希望の実現を図り、出生率の向上を通じた人口の確保と人口構造の若返りを目指している。</p> <p>また、移住した「定住人口」でもなく、観光に来た「交流人口」でもない、地域や地域の人々と多様に関わる「関係人口」の創出・拡大についても重点を置いている。地域への関心や地域とのかかわりを深めていただくなかで、地域経済の活性化や将来的な「定住人口」の増加にもつなげてまいりたい。</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策5-①観光資源の発掘と保存・活用の施策の展開&lt;文化資産等を活かした観光振興&gt;7点目に記載済。 ⇒施策5-③イメージアップ・誘致活動の強化のひとの力の視点に、将来的な移住へつなげることを記載済。 施策6-②中心市街地活性化の推進の施策の展開&lt;まちなか居住の推進&gt;3点目に記載済。 ⇒施策6-④住宅・宅地の整備の、施策の展開及びひとの力の視点に、定住人口の増加に向けた取り組みについて記載済。 施策7-④広域連携の推進の施策の展開&lt;連携中枢都市圏の取り組みの推進&gt;4点目に記載済。 ⇒施策17-③簡素で効率的な行財政の推進の施策の展開及びひとの力の視点に、&lt;人口減少・少子高齢化に対応した戦略的な都市経営&gt;を記載済。</p>
129	<p>過去の総合計画を振り返り、これだけの投資を行い、これだけの成果が出た、という効果を「見える化」してほしいと思う。そして、今後の計画については、具体的な目標について情報発信してほしい。</p>	<p>本市の総合計画では、めざすまちの姿を実現するための各施策の取り組みの成果を計る上で、最もふさわしい指標を設定し、その指標にどれだけ近づいたかを成果として把握している。指標の設定にあたっては、各施策の取り組みによって、市民の暮らしや環境がどう変わるかという視点を大切にしている。また指標については毎年度計画の進行管理を行うとともに、次期計画の策定に向けて3年間の中間総括を、計画期間の最終年度には5年間の最終総括を行い、総合計画審議会や市広報紙で公表している。</p> <p>現在策定中の第4次基本計画では、基本構想に掲げるまちの将来像「市民創造都市 高岡」は変わらないものの、これまでのまちづくりの成果を活かす「ひと」に着目することとしている。総合計画やその具体的な目標を本市に関わる様々な「ひと」が知り、共感して行動していただくことが市民創造都市の実現につながると考えており、そのためにも策定後には分かりやすく、かつ効果的な情報発信について十分検討してまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。 なお、進行管理については既に計画に記載している。（総論の第1章）</p>



No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
130	<p>自然増も大事なので結婚して子供を生んでもらうことも大事。高岡に住みたいという人が増えてほしい。</p>	<p>本市では、人口減少対策として第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」(R2-R6)において、①若者の移住・定住を促進する②若者の働く・結婚・子育ての希望をかなえる③人口減少に対応可能な地域をつくる、を基本的な考え方とし、まち・ひと・しごとの創生に取り組んでいる。</p> <p>本市の合計特殊出生率態はゆるやかな増加傾向にあるが、子どもを産む可能性のある女性人口自体が減少しているため出生数は減少傾向にある。このため、若者、女性を中心とした移住・定住の促進を図るとともに、若者のニーズに合ったしごとの創生や働きながら子どもを育てられる職場環境の整備など、若者が安心して働き、希望通りに子どもを生み、育てられる地域社会の実現を目指します。</p> <p>また、令和元年度に実施した子育てに関するアンケート調査では、「この地域で子育てをしたい」と回答した方の割合は77.7%であった。本市では令和2年3月に子育て支援に関する個別計画である「第2期高岡市子ども・子育て支援事業計画」を策定し、これに基づき妊娠・出生期から学童・思春期まで切れ目のない子育て支援施策の推進に取り組んでいる。高岡に住みたい、この地域で子育てをしたい、と考える方の増加につながるよう今後も努めてまいりたい。</p>	<p>既に計画に記載している。 ⇒施策5-①観光資源の発掘と保存・活用の施策の展開&lt;文化資産等を活かした観光振興&gt;7点目に記載済。 ⇒施策5-③イメージアップ・誘致活動の強化のひとの力の視点に、将来的な移住へつなげることを記載済。 施策6-②中心市街地活性化の推進の施策の展開&lt;まちなか居住の推進&gt;3点目に記載済。 ⇒施策6-④住宅・宅地の整備の、施策の展開及びひとの力の視点に、定住人口の増加に向けた取り組みについて記載済。 施策7-④広域連携の推進の施策の展開&lt;連携中枢都市圏の取り組みの推進&gt;4点目に記載済。 ⇒施策17-③簡素で効率的な行財政の推進の施策の展開及びひとの力の視点に、&lt;人口減少・少子高齢化に対応した戦略的な都市経営&gt;を記載済。</p>
131	<p>高岡市が富山や日本をリードする施策を打ち出して計画に盛り込んでいただきたい。高岡市としてどうやっていくかというところを打ち出してほしい。</p>	<p>本市ではこれまで、東海北陸自動車道の全線開通や北陸新幹線の開業を契機とした都市基盤・交流基盤の整備により「都市の強み」を構築し、先人から受け継いだものづくりの技術や歴史・文化資産を「まちの魅力」として磨いてきた。</p> <p>現在策定中の第4次基本計画では、「都市の強み」と「まちの魅力」を活かす「ひと」に着目し、本市に関わる個人や団体など様々な「ひとの力」に焦点をあて、「ひとの力」を結集した「地域の力」で持続可能で進化し続けるまち「市民創造都市 高岡」の実現を目指すこととしている。計画策定に向けて、高岡の歴史・文化・ものづくりといった強みを活かし、Society5.0の実現に向けた次世代技術の積極的な活用などやSDGsの推進など、新たな時代の潮流を取り入れながら、次代を拓く「ひと」がきらめくような施策を検討していきたい。</p> <p>また策定に向け、地区ごとの意見交換会や市民アンケート調査を行っており、今後もパブリックコメント等で広く皆様の声を伺ってまいりたい。</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>
132	<p>もっと積極的に現場の声をよく聞いて、高岡市として県をリードする施策を打ち出してほしい。</p>	<p>本市ではこれまで、東海北陸自動車道の全線開通や北陸新幹線の開業を契機とした都市基盤・交流基盤の整備により「都市の強み」を構築し、先人から受け継いだものづくりの技術や歴史・文化資産を「まちの魅力」として磨いてきた。</p> <p>現在策定中の第4次基本計画では、「都市の強み」と「まちの魅力」を活かす「ひと」に着目し、本市に関わる個人や団体など様々な「ひとの力」に焦点をあて、「ひとの力」を結集した「地域の力」で持続可能で進化し続けるまち「市民創造都市 高岡」の実現を目指すこととしている。計画策定に向けて、高岡の歴史・文化・ものづくりといった強みを活かし、Society5.0の実現に向けた次世代技術の積極的な活用などやSDGsの推進など、新たな時代の潮流を取り入れながら、次代を拓く「ひと」がきらめくような施策を検討していきたい。</p> <p>また策定に向け、地区ごとの意見交換会や市民アンケート調査を行っており、今後もパブリックコメント等で広く皆様の声を伺ってまいりたい。(再掲)</p>	<p>ご意見は参考としたい。</p>

No.	意見内容	意見に対する考え方	計画への反映
133	SDGsについて、先日の青年会議所とのタイアップで「市・企業・住民など多様な主体による持続可能で活力のある社会の実現に向けた能動的活動を後押しし、誰一人取り残さない社会の実現を目指す」と宣言があった。実現のため、具体的にどのような取り組みを行うのか教えてほしい。また、この達成のため、各連合自治会への働きかけはあるのか教えてほしい。	現在策定中の第4次基本計画では、基本構想に掲げるまちの将来像「市民創造都市 高岡」は変わらないものの、これまでのまちづくりの成果を活かす「ひと」に着目することとしている。総合計画やその具体的な目標を本市に関わる様々な「ひと」が知り、共感して行動していただくことが市民創造都市の実現につながると考えており、そのためにも策定後には分かりやすく、かつ効果的な情報発信について十分検討してまいりたい。	ご意見は参考としたい。
134	こうした総合計画で、30年後や50年後に高岡がこうなるみたいな夢を持たせてもらえるような楽しい話が出ると市民が元気になると思う。	本市の総合計画基本構想では、平成29年度から令和8年度までの10年間の市政運営の基本方針を示しており、現在策定中の第4次基本計画は、令和4年度から令和8年度までの5年間の計画期間となっている。今回の第4次基本計画の策定にあたっては、将来にわたって人口減少・少子高齢化が進行すると見込まれる中で、長期的（20年～30年後）な視点に立って、「次の世代」からも共感を得ることができまちづくりを進めていくことが重要と考えている。このため、これまでの本市のまちづくりの成果を最大限に活用するとともに、高岡の歴史・文化・ものづくりといった強みを活かし、Society5.0の実現に向けた次世代技術の積極的な活用などやSDGsの推進など、新たな時代の潮流を取り入れながら、次代を拓く「ひと」がきらめくような施策を検討していきたい。 総合計画やその具体的な目標を本市に関わる様々な「ひと」が知り、共感して行動していただくことが本市の未来につながると考えており、地域住民の皆様をはじめ本市に関わる個人や団体に広く計画を周知してまいりたい。	ご意見は参考としたい。
135	人口は16万7千人くらいのところ、2060年に10万8千人となり6万人減る計算である。そのときに地域としての人口の減り方が見えない。また、2060年という40年後に学校がどのような状況になっているかが見えてこない。40年後に地域づくりをどのようにしていけばいいのか、示してもらえたらありがたい。	本市の人口は、現状のまま推移すると平成30年度推計人口で2060年に人口が約10万8千人になる見通しだが、平成25年度推計人口と比較すると下がり方が抑えられており、「未来高岡」総合戦略（第1期）の取り組みの効果が表れているものと考えている。本市では、2060年の目標人口を125,000人としており、令和元年度に第2期高岡市総合戦略「みらい・たかおか」を策定し、目標人口の達成に向け取り組みを進めているところである。 40年後の地域ごとの人口や学校の見通しを現時点で示すデータはないが、人口は平成30年度に策定した都市計画マスタープランにおいて、市を5地域に分け、地域ごとの平成47年（2035年）までの5年ごとの人口推計を示している。また、学校は令和元年度に「今後10年を見据えた高岡市における小中学校の配置について」を示しているところ。 現在策定中の第4次基本計画では、人口減少・少子高齢化が進行する中で、長期的（20年～30年後）な視点に立って、「次の世代」から共感を得ることができるまちづくりを進めていくことが重要と考えている。このため、これまでの本市のまちづくりの成果である「都市の強み」と「まちの魅力」を最大限に活用する必要があると考えており、それらを活用する「ひと」に焦点を当てることとしている。全ての「ひと」が、本市に愛着と誇りを持ち、それぞれの持つ個性や能力に応じて、地域社会の中で創造的な力を発揮することで、「ひとの力」が生まれ、さらに、個々の「ひとの力」が支え合うことで、新たな価値を生み出し、地域経済やコミュニティを活性化させる「地域の力」になると考えている。 人口減少・少子高齢化の中で、将来にわたって地域コミュニティの担い手不足が懸念される。持続可能な地域づくりについて、小規模多機能自治など、地域の特性に応じた多様な組織のあり方を含め、市も一緒に考えていきたい。	ご意見は参考としたい。